

(3) 第3回ワークショップ

①パワーポイント

②配布資料

③結果

④議事録

① パワーポイント資料

川里地域小中一貫教育校新設に係る 第3回ワークショップ

テーマ：新設校の基本構想・基本計画骨子

2023.11.26（日）午前9時～11時
川里生涯学習センター 会議室

鴻巣市教育委員会 教育総務課

1

■本日のスケジュール

開会

1. 前回ワークショップの報告
2. アンケートの報告
3. 基本構想・基本計画骨子の説明
 - ① 基本理念・基本方針
 - ② 学校規模の検討
 - ③ 学校種別の比較
 - ④ ライフサイクルコストの比較
 - ⑤ 平面計画（仮2案）
 - ⑥ 事業スケジュール
4. グループによる意見交換
5. 発表
6. 総括

閉会

第3回 ワークショップ 2023.11.26（日）

2

■前回ワークショップの報告

『案1、2の意見交換』

テーマ：敷地利用, 平面プラン, 複合施設機能

第3回 ワークショップ 2023.11.26（日）

3

■前回ワークショップの報告

【案1、2】

第3回 ワークショップ 2023.11.26（日）

4

■前回ワークショップの報告

【案1、2】

第3回 ワークショップ 2023.11.26（日）

5

■前回ワークショップの報告

【案1、2】

第3回 ワークショップ 2023.11.26（日）

6

■前回ワークショップの報告

『案3、4の意見交換』

テーマ: 敷地利用, 平面プラン, 複合施設機能

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

7

■前回ワークショップの報告

『案3、4』

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

8

■前回ワークショップの報告

『案3、4』

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

9

■前回ワークショップの報告

『案3、4』

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

10

■前回ワークショップの報告

『案5の意見交換』

テーマ: 敷地利用, 平面プラン, 複合施設機能

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

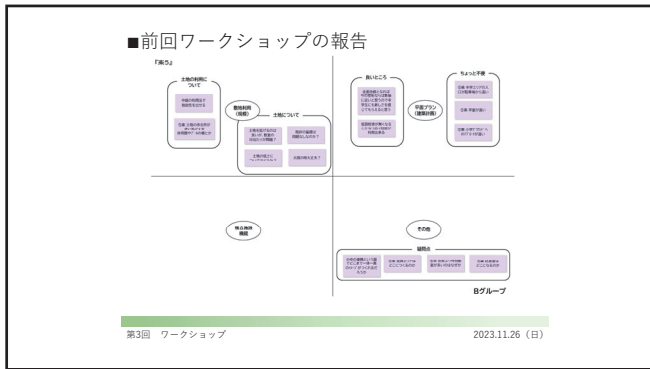
11

■前回ワークショップの報告

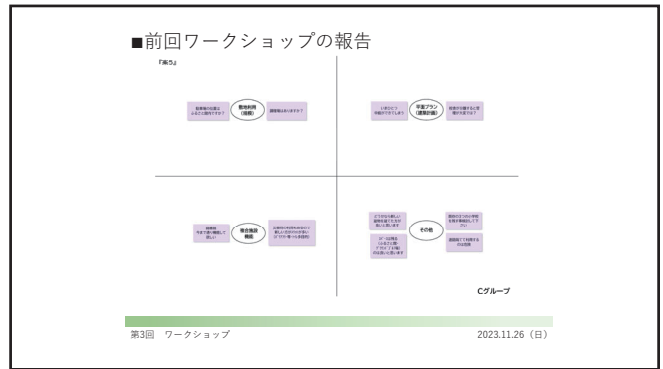
『案5』

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

12



13



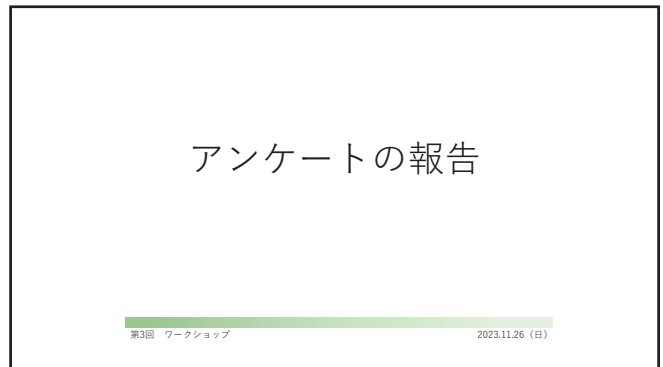
14

第2回ワークショップのまとめ

「敷地利用」	・敷地拡張は必要 ・北側校舎、南側グラウンド
「平面プラン」	・小学校と中学校の明確なゾーニング ・エレベーターの設置 ・4階建ては課題あり
「複合施設・機能」	・ふるさと館を残してほしい ・図書館の複合化は課題あり
「その他」	・仮設校舎を必要としない工事

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

15



16

■アンケートの報告

・実施期間：令和5年5月7日～令和5年7月7日
・全体回答率：42.67%（配布部数：4129部、回答者数：1762人）

対象者	学校名	小計	合計	回答率
(1) 小学生	富家小	184	489	96.83%
	共和小	27		
	広田小	223		
(2) 中学生	川量中	217	217	90.41%
	福栄小	13		
	川量中	16		
(3) 教職員	共和小	6	53	75.71%
	広田小	18		
	川量中	16		
(4) 川量地域にお住まいの方	-	483	483	21.74%
(5) 中学校在校生の保護者	-	123	123	51.25%
(6) 小学校在校生の保護者	富家小	92	299	59.21%
	共和小	37		
	広田小	170		
(7) 未就学児童の保護者	-	98	98	28.24%
合計		1762		42.67%

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

17

アンケートの主な意見：[ハード]

- ・教室や廊下等ゆとりのある広さにしてほしい
- ・バリアフリー（エレベーターの設置等）への対応及びユニバーサルデザインに基づく設計
- ・保護者用に十分な広さの駐車場整備
- ・児童生徒への安全安心により配慮した防犯設備
- ・公道を挟んでの敷地設定は避けてほしい
- ・放課後児童クラブは学校敷地内、もしくは隣接地に設置してもらいたい
- ・公共施設（放課後児童クラブ以外）との複合化は反対
- ・ふるさと館は残してほしい
- ・児童生徒の動線に配慮した間取りにしてもらいたい

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

18

アンケートの主な意見：[ソフト]

- ・英語やICT等、時代に合った教育の実施
- ・教職員の働き方について
- ・9年間同じ人間関係が続くことへの懸念
- ・小中9年間を見通した教育カリキュラムの編成が可能となる
- ・小学校での教科担任制の導入
- ・個別最適化が叫ばれていることから、様々な児童に対応できる学校づくりを進めてほしい
- ・小学生と中学生の交流と、それぞれの活躍の場の確保
- ・伝統行事（ささら、鼓笛、笛等）の継承

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

19

基本構想・基本計画骨子への反映

以上の結果を踏まえて

3案(新築)と5案(改修+増築)

第3回 ワークショップ 2つの案をベースに今後さらに検討を行う 2023.11.26 (日)

20

基本構想・基本計画骨子

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

21

- ① 基本理念・基本方針
- ② 学校規模の検討
- ③ 学校種別の比較
- ④ ライフサイクルコストの比較
- ⑤ 平面計画（仮2案）
- ⑥ 事業スケジュール

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

22

① 基本理念・基本方針

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

23

鴻巣市の基本理念

「潤いと光ある鴻巣教育」

鴻巣市の基本方針

- (1) 生きる力を育む学校教育の充実
- (2) 人生を豊かにする生涯学習の充実とスポーツの復興
- (3) 未来につながる市民文化の振興と交流の促進
- (4) 人権教育の推進
- (5) 安全・安心で機能的な教育環境の整備

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

24

新設校の整備方針

- (1)小中一貫教育に適した教育環境の整備
- (2)社会状況の変化に対応する教育環境の整備
- (3)特色あるカリキュラムの開発、教育課程の編成
- (4)避難所機能を有した施設整備
- (5)通学支援

別紙参照

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

25

② 学校規模の検討

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

26

①児童・生徒数の推移

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
昭栄小学校	児童数	184	185	193	193	193	177	174
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
共和小学校	児童数	90	93	92	86	76	71	72
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
広物小学校	児童数	224	226	227	225	217	214	218
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
川原中学校	生徒数	234	220	224	244	253	269	251
	学級数	7	6	7	8	9	9	9

統合した場合の児童・生徒数及び学級数

新設校	小学生	児童数	504	512	504	486	462	464
学級数	16	17	17	17	16	15	15	
中学生	生徒数	234	220	224	244	253	269	251
学級数	7	6	7	8	9	9	9	
合計	児童・生徒数	732	724	736	748	739	731	715
学級数	23	23	24	25	25	24	24	

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

27

②適正規模の算定

① 児童数

児童数 (1) 504

児童数 (2) 234

児童数 (3) 224

児童数 (4) 244

児童数 (5) 253

児童数 (6) 269

児童数 (7) 251

児童数 (8) 251

児童数 (9) 251

児童数 (10) 251

児童数 (11) 251

児童数 (12) 251

児童数 (13) 251

児童数 (14) 251

児童数 (15) 251

児童数 (16) 251

児童数 (17) 251

児童数 (18) 251

児童数 (19) 251

児童数 (20) 251

児童数 (21) 251

児童数 (22) 251

児童数 (23) 251

児童数 (24) 251

児童数 (25) 251

児童数 (26) 251

児童数 (27) 251

児童数 (28) 251

児童数 (29) 251

児童数 (30) 251

児童数 (31) 251

児童数 (32) 251

児童数 (33) 251

児童数 (34) 251

児童数 (35) 251

児童数 (36) 251

児童数 (37) 251

児童数 (38) 251

児童数 (39) 251

児童数 (40) 251

児童数 (41) 251

児童数 (42) 251

児童数 (43) 251

児童数 (44) 251

児童数 (45) 251

児童数 (46) 251

児童数 (47) 251

児童数 (48) 251

児童数 (49) 251

児童数 (50) 251

児童数 (51) 251

児童数 (52) 251

児童数 (53) 251

児童数 (54) 251

児童数 (55) 251

児童数 (56) 251

児童数 (57) 251

児童数 (58) 251

児童数 (59) 251

児童数 (60) 251

児童数 (61) 251

児童数 (62) 251

児童数 (63) 251

児童数 (64) 251

児童数 (65) 251

児童数 (66) 251

児童数 (67) 251

児童数 (68) 251

児童数 (69) 251

児童数 (70) 251

児童数 (71) 251

児童数 (72) 251

児童数 (73) 251

児童数 (74) 251

児童数 (75) 251

児童数 (76) 251

児童数 (77) 251

児童数 (78) 251

児童数 (79) 251

児童数 (80) 251

児童数 (81) 251

児童数 (82) 251

児童数 (83) 251

児童数 (84) 251

児童数 (85) 251

児童数 (86) 251

児童数 (87) 251

児童数 (88) 251

児童数 (89) 251

児童数 (90) 251

児童数 (91) 251

児童数 (92) 251

児童数 (93) 251

児童数 (94) 251

児童数 (95) 251

児童数 (96) 251

児童数 (97) 251

児童数 (98) 251

児童数 (99) 251

児童数 (100) 251

② 生徒数

生徒数 (1) 234

生徒数 (2) 220

生徒数 (3) 224

生徒数 (4) 244

生徒数 (5) 253

生徒数 (6) 269

生徒数 (7) 251

生徒数 (8) 251

生徒数 (9) 251

生徒数 (10) 251

生徒数 (11) 251

生徒数 (12) 251

生徒数 (13) 251

生徒数 (14) 251

生徒数 (15) 251

生徒数 (16) 251

生徒数 (17) 251

生徒数 (18) 251

生徒数 (19) 251

生徒数 (20) 251

生徒数 (21) 251

生徒数 (22) 251

生徒数 (23) 251

生徒数 (24) 251

生徒数 (25) 251

生徒数 (26) 251

生徒数 (27) 251

生徒数 (28) 251

生徒数 (29) 251

生徒数 (30) 251

生徒数 (31) 251

生徒数 (32) 251

生徒数 (33) 251

生徒数 (34) 251

生徒数 (35) 251

生徒数 (36) 251

生徒数 (37) 251

生徒数 (38) 251

生徒数 (39) 251

生徒数 (40) 251

生徒数 (41) 251

生徒数 (42) 251

生徒数 (43) 251

生徒数 (44) 251

生徒数 (45) 251

生徒数 (46) 251

生徒数 (47) 251

生徒数 (48) 251

生徒数 (49) 251

生徒数 (50) 251

生徒数 (51) 251

生徒数 (52) 251

生徒数 (53) 251

生徒数 (54) 251

生徒数 (55) 251

生徒数 (56) 251

生徒数 (57) 251

生徒数 (58) 251

生徒数 (59) 251

生徒数 (60) 251

生徒数 (61) 251

生徒数 (62) 251

生徒数 (63) 251

生徒数 (64) 251

生徒数 (65) 251

生徒数 (66) 251

生徒数 (67) 251

生徒数 (68) 251

生徒数 (69) 251

生徒数 (70) 251

生徒数 (71) 251

生徒数 (72) 251

生徒数 (73) 251

生徒数 (74) 251

生徒数 (75) 251

生徒数 (76) 251

生徒数 (77) 251

生徒数 (78) 251

生徒数 (79) 251

生徒数 (80) 251

生徒数 (81) 251

生徒数 (82) 251

生徒数 (83) 251

生徒数 (84) 251

生徒数 (85) 251

生徒数 (86) 251

生徒数 (87) 251

生徒数 (88) 251

生徒数 (89) 251

生徒数 (90) 251

生徒数 (91) 251

生徒数 (92) 251

生徒数 (93) 251

生徒数 (94) 251

生徒数 (95) 251

生徒数 (96) 251

生徒数 (97) 251

生徒数 (98) 251

生徒数 (99) 251

生徒数 (100) 251

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

28

③所要室の規模算定-1

名称	面積	用途	名称	面積	用途
校長室	10.0	校長室	職員室	10.0	職員室
副校長室	10.0	副校長室	教員用机	10.0	教員用机
教員用机	10.0	教員用机	職員用机	10.0	職員用机
職員用机	10.0	職員用机	事務室	10.0	事務室
事務室	10.0	事務室	会議室	10.0	会議室
会議室	10.0	会議室	図書室	10.0	図書室
図書室	10.0	図書室	音楽室	10.0	音楽室
音楽室	10.0	音楽室	体育館	10.0	体育館
体育館	10.0	体育館	多目的室	10.0	多目的室
多目的室	10.0	多目的室	倉庫	10.0	倉庫
倉庫	10.0	倉庫	トイレ	10.0	トイレ
トイレ	10.0	トイレ	シャワー	10.0	シャワー
シャワー	10.0	シャワー	更衣室	10.0	更衣室
更衣室	10.0	更衣室	自転車置き場	10.0	自転車置き場
自転車置き場	10.0	自転車置き場	駐車場	10.0	駐車場
駐車場	10.0	駐車場	その他	10.0	その他

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

29

③所要室の規模算定-2

名称	面積	用途	名称	面積	用途
メディアセンター	10.0	メディアセンター	図書室	10.0	図書室
図書室	10.0	図書室	音楽室	10.0	音楽室
音楽室	10.0	音楽室	体育館	10.0	体育館
体育館	10.0	体育館	多目的室	10.0	多目的室
多目的室	10.0	多目的室	倉庫	10.0	倉庫
倉庫	10.0	倉庫	トイレ	10.0	トイレ
トイレ	10.0	トイレ	シャワー	10.0	シャワー
シャワー	10.0	シャワー	更衣室	10.0	更衣室
更衣室	10.0	更衣室	自転車置き場	10.0	自転車置き場
自転車置き場	10.0	自転車置き場	駐車場	10.0	駐車場
駐車場	10.0	駐車場	その他	10.0	その他

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

30

④ 教室規模の算定

※既存の学校の教室は旧JIS規格の学習机で規模を計画されているため、机レイアウトが狭い。
(旧規格) W600×D400 → (現在) W650×D450

従来の一般的な広さ (60cm) の普通教室レイアウト (現在の学校にも広く採用)

現在 JIS規格の机のレイアウトでは35席の収容が可能

従来の一般的な広さ (60cm) の普通教室レイアウト (旧規格) 収容可能座席数 32席

現在 JIS規格の机で普通教室レイアウト (現在) 収容可能座席数 35席

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

31

⑤ 学校規模の検討まとめ

必要学級数
 ○小学校・・・17学級 (特別支援2学級を含む)
 ○中学校・・・11学級 (特別支援2学級を含む)
 ◎合計・・・28学級以上

特別教室数
 ○小学校・・・7教室 (多目的教室等は除く)
 ○中学校・・・8教室 (多目的教室等は除く)
 ◎合計・・・15教室以上

必要面積
 ○小学校・・・6,853㎡
 ○中学校・・・6,098㎡
 ◎合計・・・12,951㎡以上

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

32

③ 学校種別の比較

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

33

① 学校種の比較

	小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
概要	小学校 中学校	義務教育学校
特色	小中一貫型小学校・中学校は、小学校の基礎力・基礎力に接続した教育課程を編成し、小中一貫型で学習を進め、学習の連続性を確保する。	義務教育学校は、義務教育の段階で、基礎力・基礎力に接続した教育課程を編成し、小中一貫型で学習を進め、学習の連続性を確保する。
教育課程	小中一貫型小学校・中学校は、小学校の基礎力・基礎力に接続した教育課程を編成し、小中一貫型で学習を進め、学習の連続性を確保する。	義務教育学校は、義務教育の段階で、基礎力・基礎力に接続した教育課程を編成し、小中一貫型で学習を進め、学習の連続性を確保する。
施設	小学校、中学校	義務教育学校
学費	小学校、中学校は無料です。通学費は別途です。	義務教育学校は無料です。通学費は別途です。
入学時期	小学校は4月、中学校は9月です。	義務教育学校は4月です。
卒業時期	小学校は6月、中学校は3月です。	義務教育学校は3月です。
卒業後	小学校は小学校卒業後、中学校は中学校卒業後です。	義務教育学校は義務教育学校卒業後です。
卒業後進学先	小学校は小学校卒業後、中学校は中学校卒業後です。	義務教育学校は義務教育学校卒業後です。

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

34

② 校舎配置分類の検討

○案1～4・・・①
 ○案5・・・②

小中一貫教育を実現する学校設計の校舎配置状況の分類

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

35

④ ライフサイクルコストの比較

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

36

① ライフサイクルコストの比較

◇比較条件

- (1) 「新築」「改修+増築」「統合を行わなかった場合」を比較
- (2) 建設後80年目までのシミュレーションを比較 (躯体寿命を80年と想定)
- (3) イニシャルコスト：建設コスト
ランニングコスト：運用コスト (光熱費等)
保全コスト (維持管理・修繕)
解体コスト (解体・廃棄処分)

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

37

② ライフサイクルコストの金額推移比較

新築校舎
改修+増築
統合を行わなかった場合

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

38

③ ライフサイクルコストの構成比率比較

シナリオ	建設コスト①	運用コスト	増設コスト② (2048年)	保全コスト	解体コスト
新築校舎 [約175億円]	72億円 (42%)	14億円 (8%)	83億円 (47%)	6億円 (3%)	0億円 (0%)
改修+増築 [約174億円]	59億円 (34%)	25億円 (15%)	33億円 (19%)	71億円 (41%)	2億円 (1%)
統合を行わなかった場合 [約222億円]	51億円 (23%)	82億円 (37%)	13億円 (6%)	71億円 (32%)	4億円 (2%)

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

39

④ ライフサイクルコストのまとめ

- 初期の建設費は「新築」に比べ「改修+増築」の方が安い、最終的に掛かる費用はほぼ同等となる
- 「改修+増築」で計画した場合は、将来的に改修棟 建替える工事が発生する。将来建替工事では仮設校舎が必要になる
- 統合を行わないで、既存校舎での運営を続けた場合は最終的に1.25倍程の費用が掛かる

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

40

⑤ 平面計画 (仮2案)

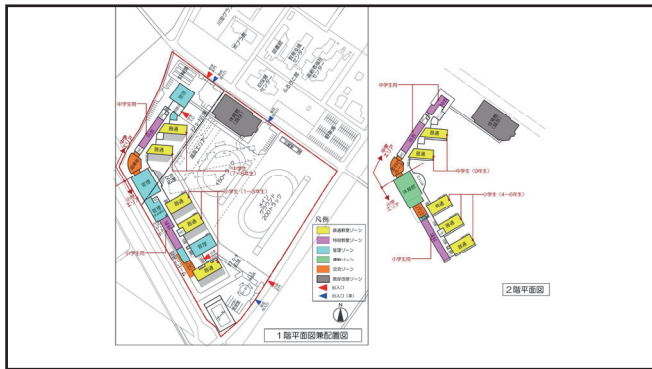
第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

41

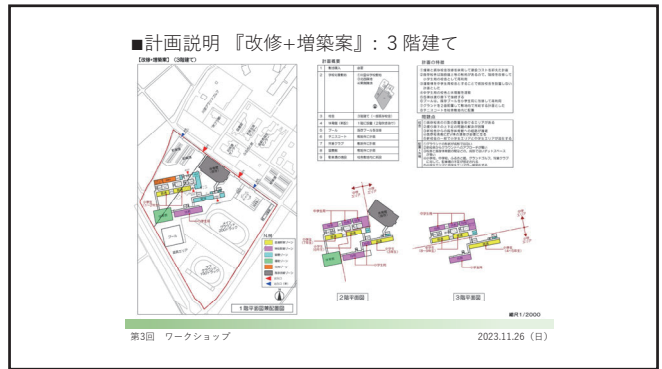
■計画説明『新築案』: 2階建て

第3回 ワークショップ 2023.11.26 (日)

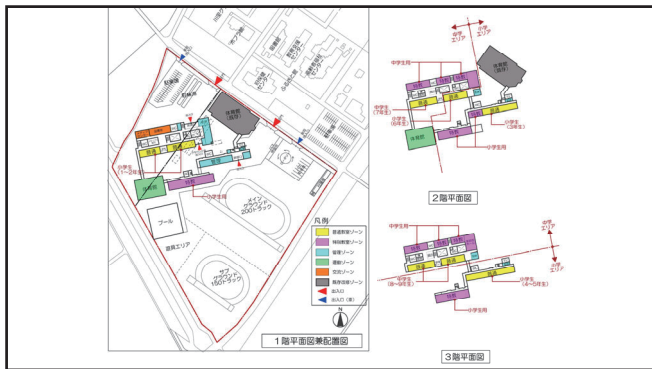
42



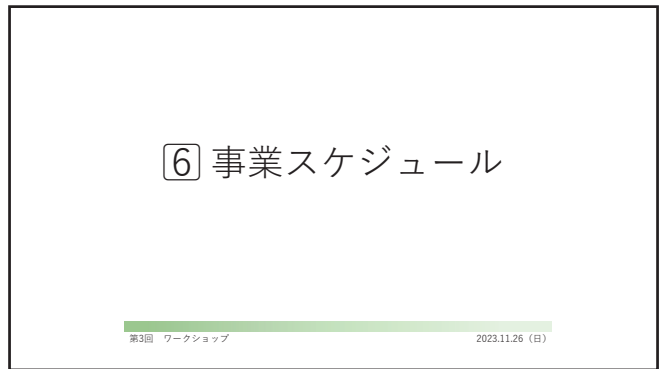
43



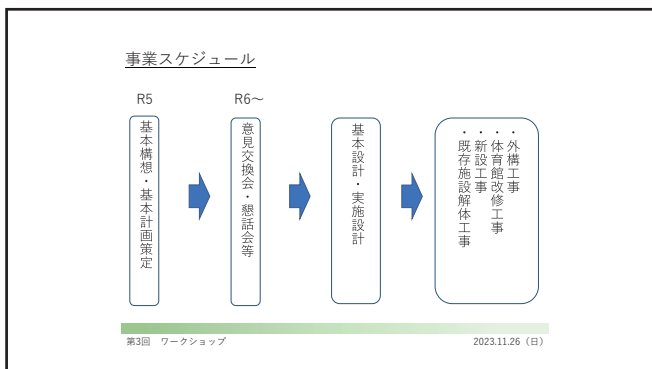
44



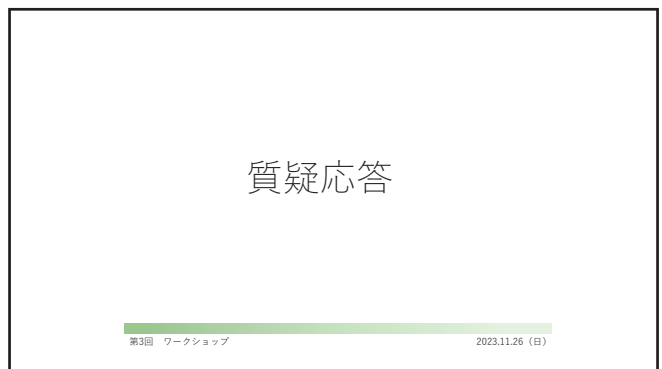
45



46



47



48

■ 『基本構想・基本計画骨子』
についてグループによる意見交換

49

■各グループに分かれ自己紹介、リーダー決定

- グループ内自己紹介
- リーダーを決めてください
- 発表者を決めてください

50

■グループによる意見交換

テーマ

『基本構想・基本計画骨子』
についての意見交換 (30分間)

使用するふせんの色

グリーン ……意見 (25分)

イエロー ……まとめ意見 (5分)

51

■グループによる意見交換

まとめ (5分間)

- 意見のまとめ
- グループビンゴ
- 発表準備

52

■発表

- グループA→B→Cの順で発表を行います
- 各グループ発表 [7分]

53

本日はありがとうございました

54

②配布資料

鴻教総第648号
令和5年11月17日

参加者各位

教育総務課長

第3回川里地域小中一貫教育校新設に関するワークショップの開催について（通知）

晩秋の候、皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、第3回ワークショップを下記のとおり開催しますので、御多忙の折恐縮に存じますが、御出席くださいますようお願いいたします。

記

- 1 日時 令和5年11月26日（日） 午前9時～11時
- 2 場所 川里生涯学習センター 会議室1・2
- 3 内容 基本構想・基本計画の骨子
- 4 その他
 - ・川里地域小中一貫教育校新設に関するアンケートの結果をHPに掲載しています。下記QRコードより御覧ください。
 - ・欠席される場合は、担当まで御連絡をお願いします。



【問合せ先】

教育部教育総務課

小・中学校適正配置担当 新井・堀

電話 048 (544) 1210

E-mail kyoiku@kounosu.saitama.jp

川里地域小中一貫教育校新設に係る ワークショップ

日時:令和5年11月26日(日)

9時00分~11時00分

場所:川里生涯学習センター 会議室

第3回ワークショップ開催:11月26日

タイムスケジュール

8:45 ~	受付
9:00 ~ 9:05	開会
9:05 ~ 9:10	前回ワークショップの報告
9:10 ~ 9:15	アンケートの報告
9:15 ~ 9:30	基本構想の報告
9:30 ~ 9:40	質疑応答
9:40 ~ 9:45	各グループに分かれ自己紹介 / リーダー決定
9:45 ~ 10:20	グループによる意見交換 / 発表準備
10:20 ~ 10:45	発表 各グループ7分程度
10:45 ~ 10:55	講評/挨拶
10:55 ~ 11:00	閉会/事務連絡
11:00	解散

[ワークショップスケジュール]

回数	開催日時	内 容
第1回	6月25日(日) 9時00分～12時00分 ふるさと会館 会議室	◆テーマ1 「新設校計画に向けて概要説明、意見・要望・課題の整理」 1. プロポーザル案紹介・参考事例紹介 2. 既存校舎見学 3. 意見交換
第2回	8月20日(日) 9時00分～12時00分 川里支所 会議室	◆テーマ2 「建物規模・必要機能・複合施設の検討」 1. 敷地利用に対する意見交換 2. 平面プランに対する意見交換 3. 複合施設・機能に対する意見交換
第3回	11月26日(日) 9時00分～11時00分 <u>川里生涯学習センター</u> 会議室 ※開催場所を変更しております。 (変更箇所は下線表記)	◆テーマ3 「新設校の <u>基本構想・基本計画骨子</u> 」 1. <u>基本構想・基本計画骨子</u> に対する 意見交換 ※テーマ及び意見交換の内容を若干変更しております。(変更箇所は下線表記)

～新設校の整備方針～

(1) 小中一貫教育に適した教育環境の整備

平成23年から川里中学校区で実施してきた小中一貫教育を通して、より良い教育環境を目指し、地域の3つの小学校と1つの中学校の特色を活かした魅力ある学校づくりに向け、施設一体型の義務教育学校を設置します。

川里地域の新たな拠点として、子育て世代を呼び込むことのできる学校、また、教育先進都市を目指す鴻巣市のモデルとなる学校を新設します。

義務教育学校では、9年間の一貫した指導や小学校高学年の教科担任制、異学年の交流活動等の多様な教育実践が可能となり、児童生徒の成長や教職員の指導の面で高い効果が期待できます。

(2) 社会状況の変化に対応する教育環境の整備

社会の状況に対応し、主体的に行動できる子どもを育む教育環境の整備を行います。

ア 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた「令和の日本型学校教育」

イ インクルーシブ教育システムの構築・多様性の尊重

ウ 柔軟な学年段階の区切りの設定

エ 教職員の働く場としての機能向上

(3) 特色あるカリキュラムの開発、教育課程の編成

施設一体型義務教育学校の特色である、9年間を見通した研究開発制度・教育課程特例制度の下で学校指導によらない、教育課程編成の自由度を活かした「先進的・特色あるカリキュラム」、小中学校の教職員組織が一体化することで可能となる「9年間の切れ目のない学びの提供」、日常的な「異学年交流」を相互に関連させたカリキュラムマネジメントを取り入れ、義務教育の質の向上を図ります。

(4) 避難所機能を有した施設整備

災害の発生時など、有事の際には、関係機関と連携し、児童・生徒の安全・安心を確保するとともに、地域住民も避難できる施設を検討します。

(5) 通学支援

義務教育学校の新設により、小中学校が一体的に整備されることで、通学距離が遠くなってしまう児童が見込まれるため、スクールバスを活用する等、通学方法を検討します。

川里地域小中一貫教育校新設に係る 第3回ワークショップ

テーマ：新設校の基本構想・基本計画骨子

2023.11.26（日）午前9時～11時

川里生涯学習センター 会議室

鴻巣市教育委員会 教育総務課

■本日のスケジュール

開会

1. 前回ワークショップの報告
2. アンケートの報告
3. 基本構想・基本計画骨子の説明
 - ①. 基本理念・基本方針
 - ②. 学校規模の検討
 - ③. 学校種別の比較
 - ④. ライフサイクルコストの比較
 - ⑤. 平面計画（仮2案）
 - ⑥. 事業スケジュール
4. グループによる意見交換
5. 発表
6. 総括

閉会

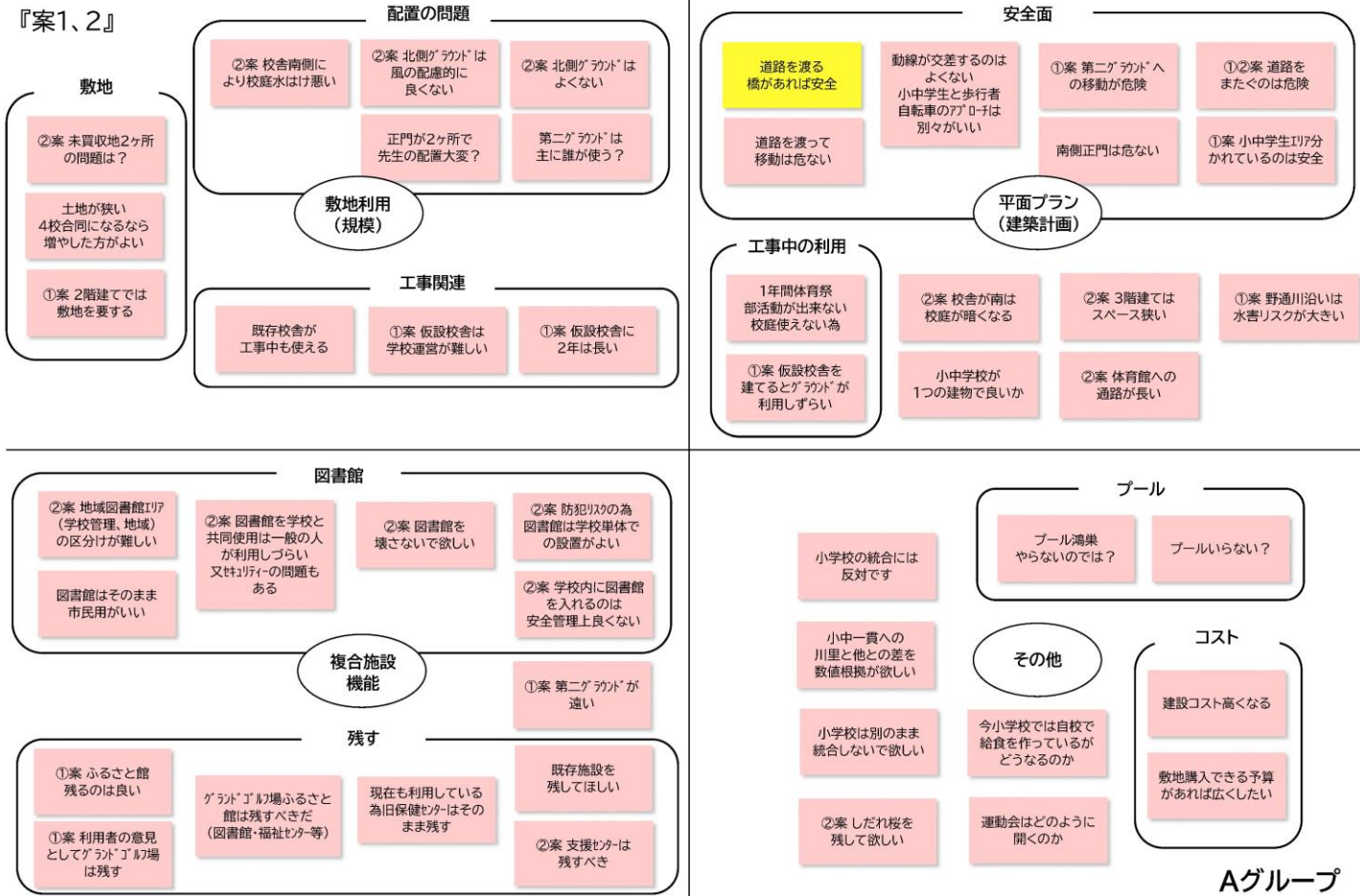
■前回ワークショップの報告

『案1、2の意見交換』

テーマ: 敷地利用, 平面プラン, 複合施設機能

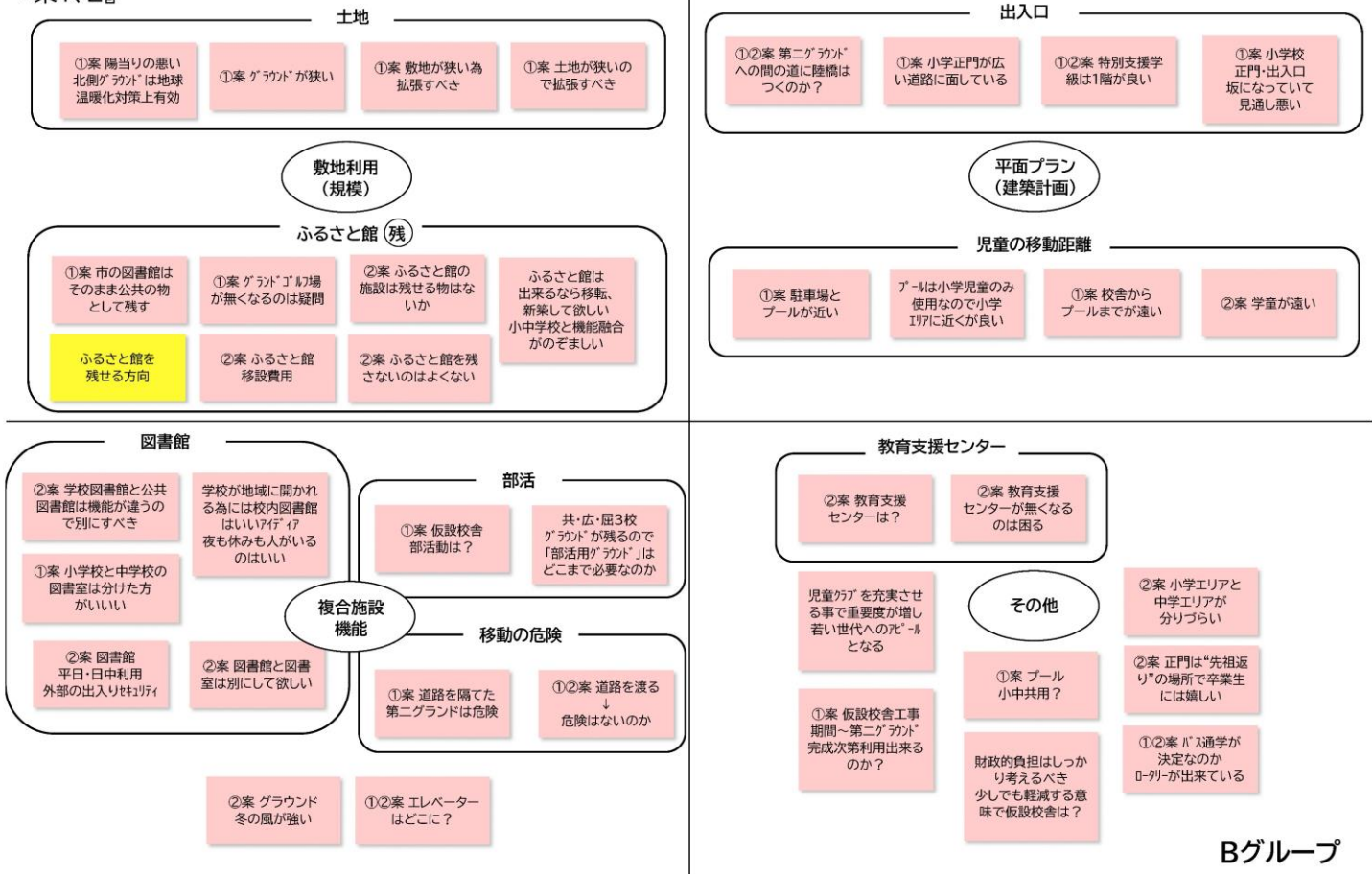
■ 前回ワークショップの報告

『案1、2』



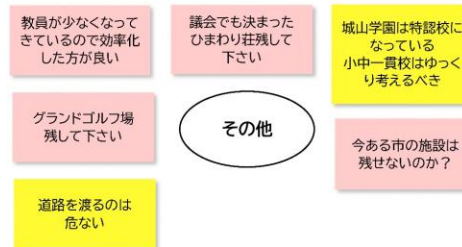
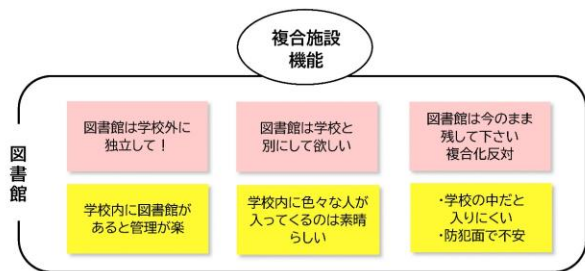
■ 前回ワークショップの報告

『案1、2』



■前回ワークショップの報告

『案1、2』



Cグループ

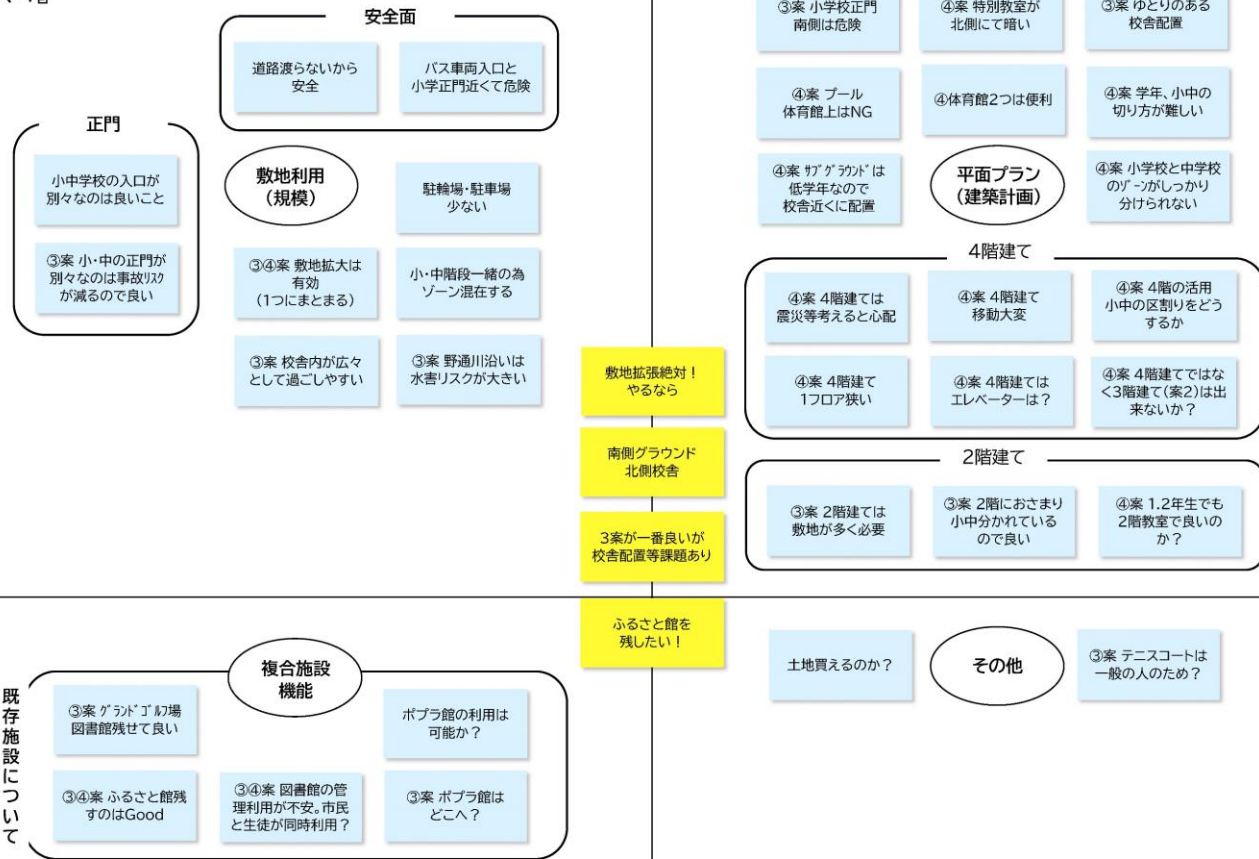
■前回ワークショップの報告

『案3、4の意見交換』

テーマ：敷地利用，平面プラン，複合施設機能

■ 前回ワークショップの報告

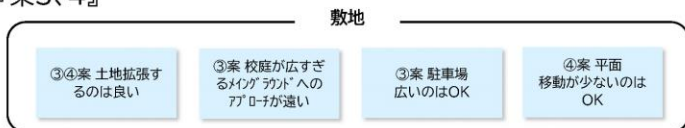
『案3、4』



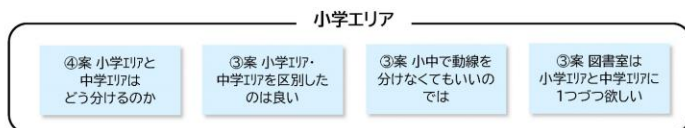
Aグループ

■ 前回ワークショップの報告

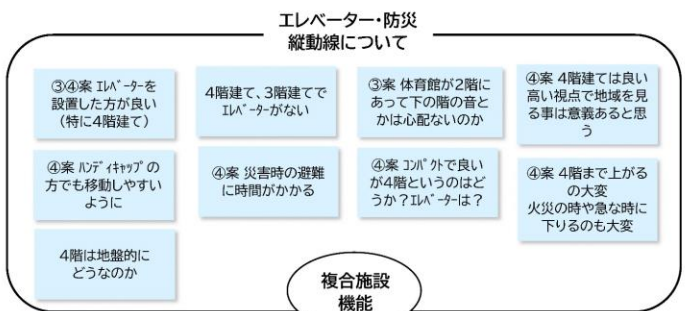
『案3、4』



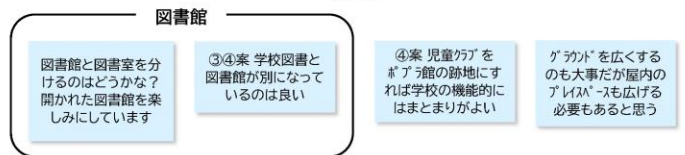
敷地利用
(規模)



平面プラン
(建築計画)



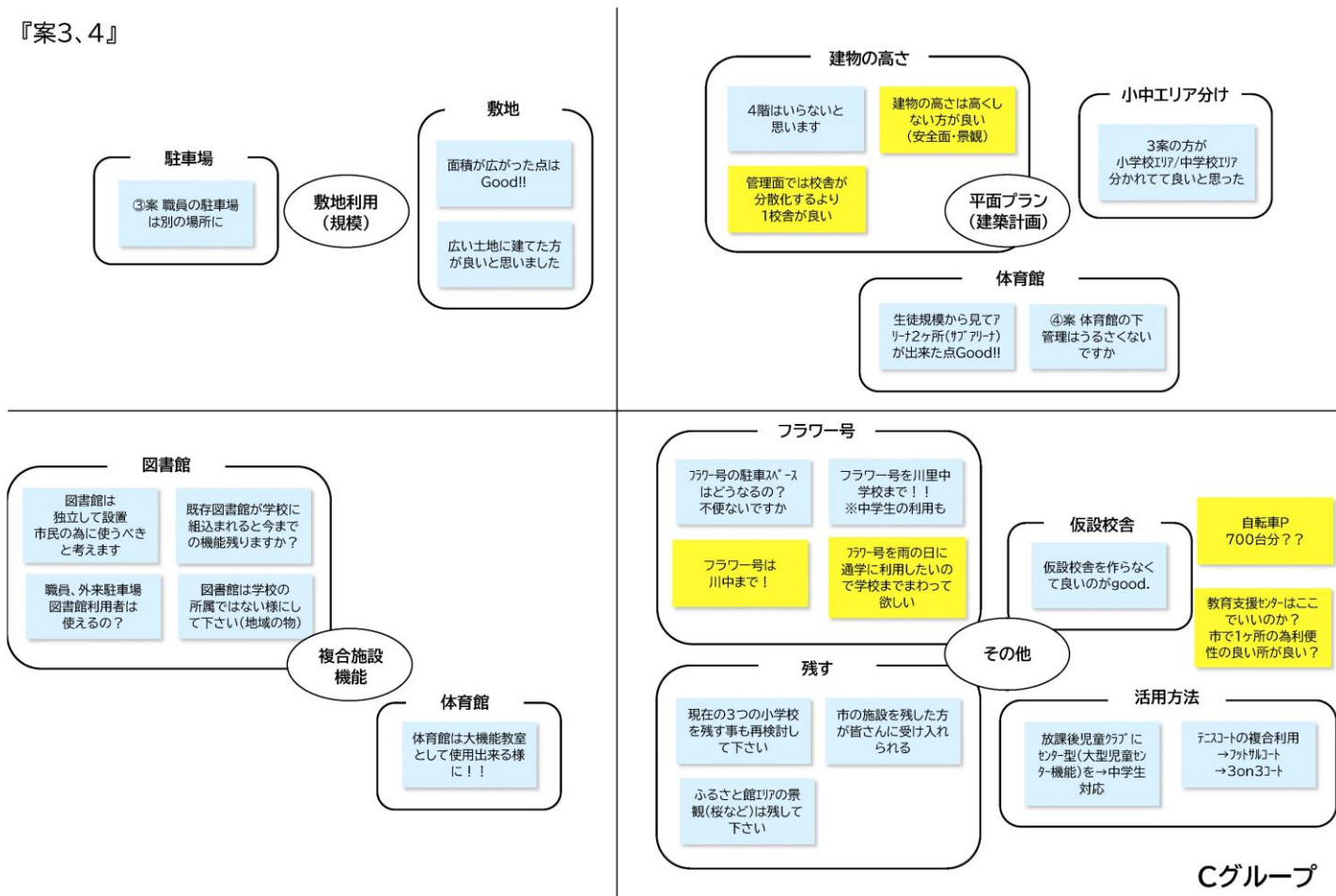
複合施設
機能



Bグループ

■ 前回ワークショップの報告

『案3、4』



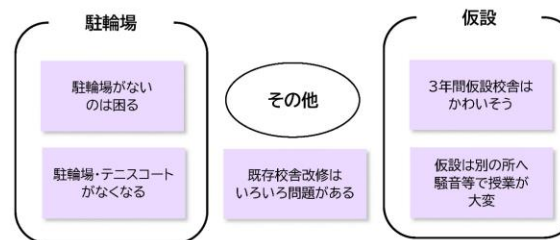
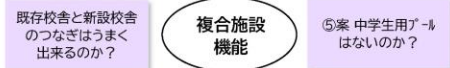
■前回ワークショップの報告

『案5の意見交換』

テーマ: 敷地利用, 平面プラン, 複合施設機能

■ 前回ワークショップの報告

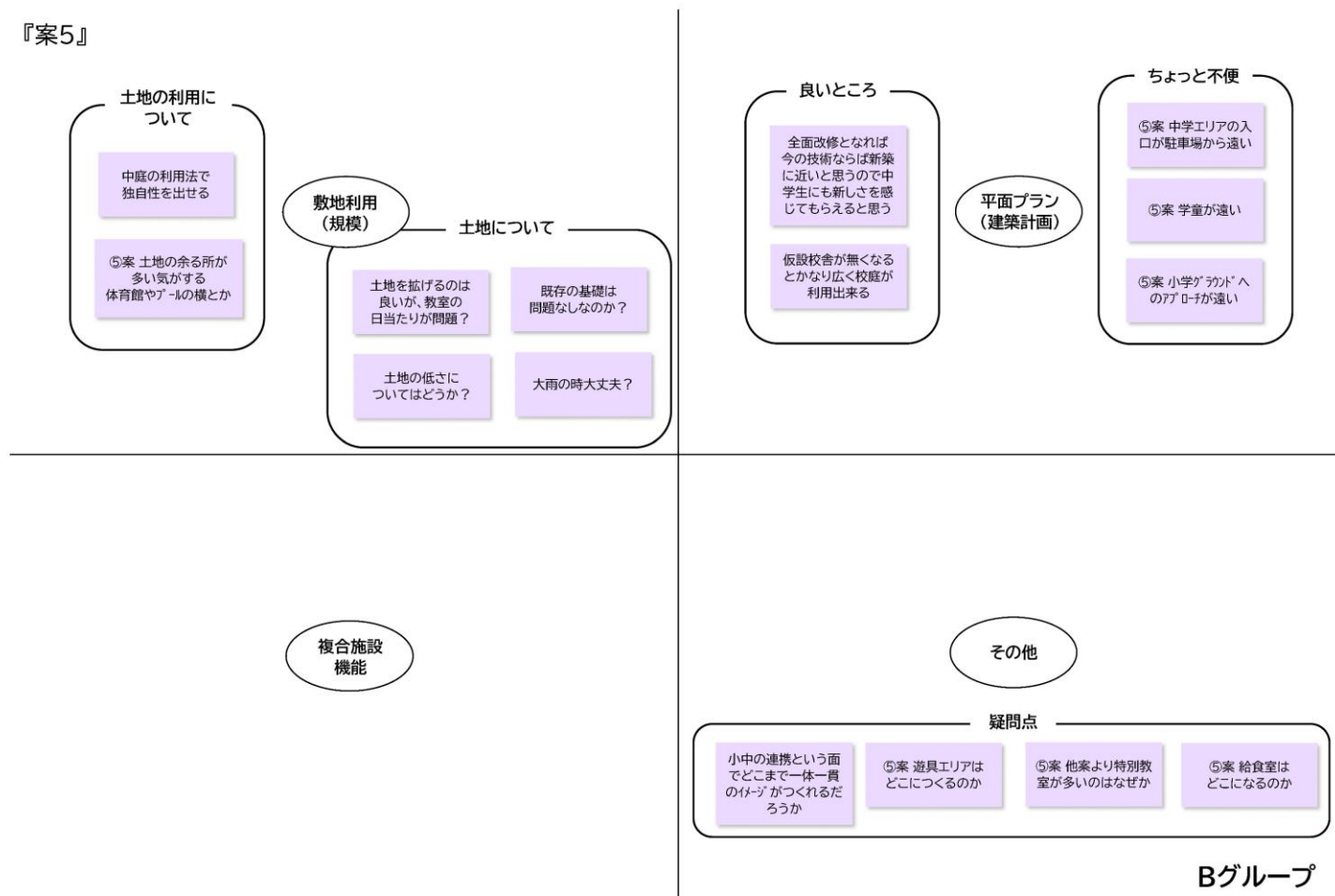
『案5』



Aグループ

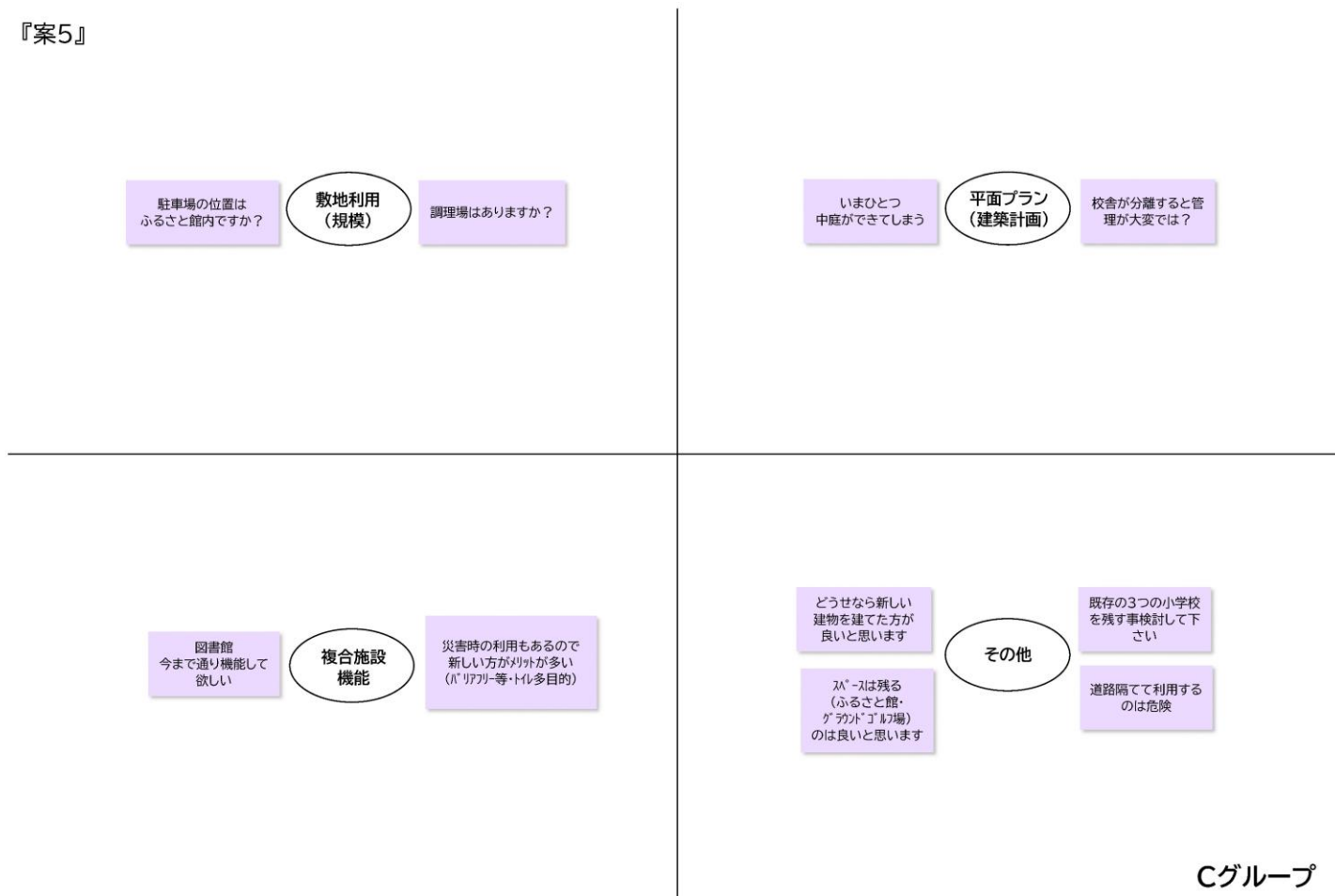
■前回ワークショップの報告

『案5』



■前回ワークショップの報告

『案5』



第2回ワークショップのまとめ

「敷地利用」

- ・ 敷地拡幅は必要
- ・ 北側校舎、南側グラウンド

「平面プラン」

- ・ 小学校と中学校の明確なゾーニング
- ・ エレベーターの設置
- ・ 4階建ては課題あり

「複合施設・機能」

- ・ ふるさと館を残してほしい
- ・ 図書館の複合化は課題あり

「その他」

- ・ 仮設校舎を必要としない工事

アンケートの報告

■アンケートの報告

- ・実施期間　：令和5年5月7日～令和5年7月7日
- ・全体回答率：42.67%（配布部数：4129部、回答者数：1762人）

対象者	学校名	小計	合計	回答率
(1) 小学生	屈巢小	184	489	96.83%
	共和小	82		
	広田小	223		
(2) 中学生	川里中	217	217	90.41%
(3) 教職員	屈巢小	13	53	75.71%
	共和小	6		
	広田小	18		
	川里中	16		
(4) 川里地域にお住いの方	-	483	483	21.74%
(5) 中学校在校生の保護者	-	123	123	51.25%
(6) 小学校在校生の保護者	屈巢小	92	299	59.21%
	共和小	37		
	広田小	170		
(7) 未就学児童の保護者	-	98	98	28.24%
合計			1762	42.67%

アンケートの主な意見：[ハード]

- ・ 教室や廊下等ゆとりのある広さにしてほしい
- ・ バリアフリー（エレベータの設置等）への対応及びユニバーサルデザインに基づく設計
- ・ 保護者用に十分な広さの駐車場整備
- ・ 児童生徒への安全安心により配慮した防犯設備
- ・ 公道を挟んでの敷地設定は避けてほしい
- ・ 放課後児童クラブは学校敷地内、もしくは隣接地に設置してもらいたい
- ・ 公共施設（放課後児童クラブ以外）との複合化は反対
- ・ ふるさと館は残してほしい
- ・ 児童生徒の動線に配慮した間取りにしてもらいたい

アンケートの主な意見：[ソフト]

- ・ 英語やICT等、時代に合った教育の実施
- ・ 教職員の働き方について
- ・ 9年間同じ人間関係が続くことへの懸念
- ・ 小中9年間を見通した教育カリキュラムの編成が可能となる
- ・ 小学校での教科担任制の導入
- ・ 個別最適化が叫ばれていることから、様々な児童に対応できる学校づくりを進めてほしい
- ・ 小学生と中学生の交流と、それぞれの活躍の場の確保
- ・ 伝統行事（ささら、鼓笛、蛍等）の継承

基本構想・基本計画骨子への反映

以上の結果を踏まえて

3案(新築) と 5案(改修+増築)

2つの案をベースに今後さらに検討を行う

基本構想・基本計画骨子

- ①. 基本理念・基本方針
- ②. 学校規模の検討
- ③. 学校種別の比較
- ④. ライフサイクルコストの比較
- ⑤. 平面計画（仮2案）
- ⑥. 事業スケジュール

① 基本理念・基本方針

鴻巣市の基本理念

「潤いと光ある鴻巣教育」

鴻巣市の基本方針

- (1) 生きる力を育む学校教育の充実
- (2) 人生を豊かにする生涯学習の充実とスポーツの復興
- (3) 未来につながる市民文化の復興と交流の促進
- (4) 人権教育の推進
- (5) 安全・安心で機能的な教育環境の整備

新設校の整備方針

- (1) 小中一貫教育に適した教育環境の整備
- (2) 社会状況の変化に対応する教育環境の整備
- (3) 特色あるカリキュラムの開発、教育課程の編成
- (4) 避難所機能を有した施設整備
- (5) 通学支援

別紙参照

② 学校規模の検討

①児童・生徒数の推移

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
屈巢小学校	児童数	184	185	193	193	193	177	174
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
共和小学校	児童数	90	93	92	86	76	71	72
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
広田小学校	児童数	224	226	227	225	217	214	218
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
川里中学校	生徒数	234	220	224	244	253	269	251
	学級数	7	6	7	8	9	9	9

統合した場合の児童・生徒数及び学級数

新設校	小学生	児童数	498	504	512	504	486	462	464
		学級数	16	17	17	17	16	15	15
	中学生	生徒数	234	220	224	244	253	269	251
		学級数	7	6	7	8	9	9	9
	合計	児童・生徒数	732	724	736	748	739	731	715
		学級数	23	23	24	25	25	24	24

②適正規模の算定

①小学校	
令和11年度見込（令和5年4月1日現在で推計）	
児童数	464人
学級数（N）	15学級
特別支援学級	2学級
計	17学級
(1) 校舎（学級数に応じる校舎必要面積）	
普通教室	$3,881 + 187 \times (N-12) = 4,442 \text{ m}^2$
特別支援学級	$2\text{学級} \times 168 = 336 \text{ m}^2$
計	4,778 m^2
多目的室及び少人数授業用教室 加算	$4,778 \times 1.180 = 5,638 \text{ m}^2$
(2) 屋内運動場（学級数に応じる屋内運動場必要面積）	
	1,215 m^2
■ 学級数に応じる校舎及び屋内運動場必要面積	
(1) + (2)	= 6,853 m^2
	文部科学省基準

②中学校	
令和11年度見込（令和5年4月1日現在で推計）	
生徒数	251人
学級数（N）	9学級
特別支援学級	2学級
計	11学級
(1) 校舎（学級数に応じる校舎必要面積）	
普通教室	$3,181 + 324 \times (N-6) = 4,153 \text{ m}^2$
特別支援学級	$2\text{C R} \times 168 = 336 \text{ m}^2$
計	4,489 m^2
多目的室及び少人数授業用教室 加算	$4,489 \times 1.105 = 4,960 \text{ m}^2$
(2) 屋内運動場（学級数に応じる屋内運動場必要面積）	
	1,138 m^2
■ 学級数に応じる校舎及び屋内運動場必要面積	
(1) + (2)	= 6,098 m^2
	文部科学省基準

③所要室の規模算-1

室名	面積規模		備考
普通教室・特別支援教室（小学生）			
普通教室	15室	1,110㎡	1室 = 74㎡ 想定
特別支援教室	2室	74㎡	1室 = 74㎡ / 2 想定
特別教室・多目的教室（小学生）			
家庭科教室	1室	148㎡	準備室含む
図工教室	1室	148㎡	準備室含む
理科教室	2室	296㎡	準備室含む
音楽教室	1室	185㎡	準備室含む
生活科教室	1室	74㎡	
外国語教室	1室	74㎡	
特別活動室	1室	37㎡	
メモリアル展示室	共用部に含む	—	
通級指導教室	2室	74㎡	
多目的室・多目的スペース	6室	666㎡	計画内容により室数調整とする
プレイルーム	2室	148㎡	
少人数教室・学習室	6室	222㎡	計画内容により室数調整とする

室名	面積規模		備考
普通教室・特別支援教室（中学生）			
普通教室	9室	666㎡	1室 = 74㎡ 想定
特別支援教室	2室	74㎡	1室 = 74㎡ / 2 想定
特別教室・多目的教室（中学生）			
家庭科教室	1室	148㎡	準備室含む
美術教室	1室	148㎡	準備室含む
理科教室	1室	148㎡	準備室含む
音楽教室	1室	185㎡	準備室含む
技術教室	2室	186㎡	準備室含む
外国語教室	2室	148㎡	
特別活動室	1室	37㎡	
多目的室・多目的スペース	3室	222㎡	計画内容により室数調整とする
少人数教室・学習室	1室	111㎡	計画内容により室数調整とする

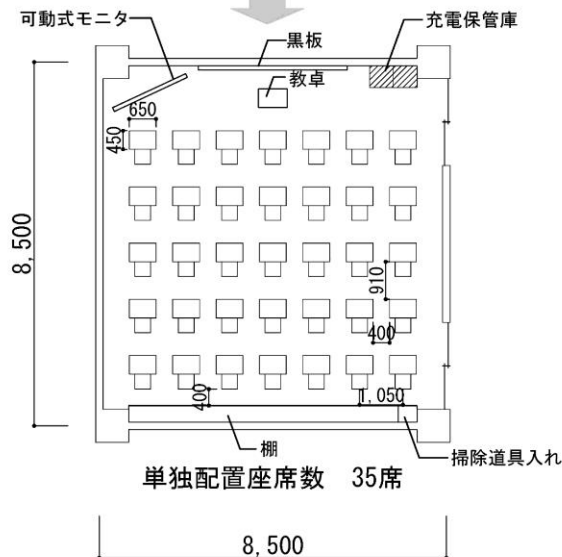
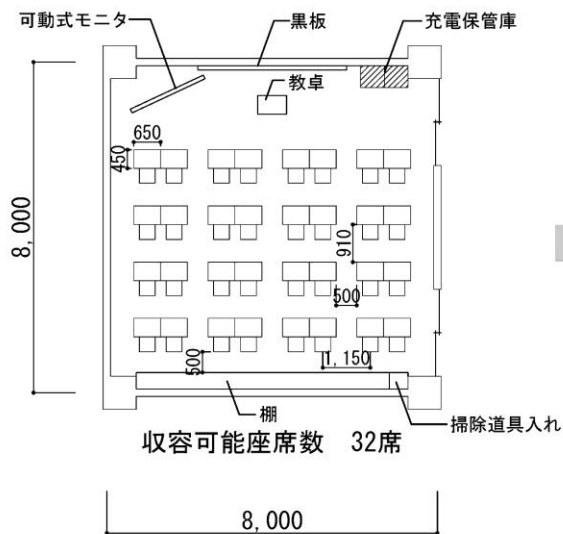
③所要室の規模算定-2

共用室			
メディアセンター	1室	360㎡	図書室・コンピューター教室・視聴覚教室含む 計画内容により面積調整とする
ランチルーム	1室	222㎡	計画内容により面積調整とする
管理諸室			
保健室	1室	74㎡	
相談室	4室	148㎡	
職員室	2室	256㎡	
事務室	1室	37㎡	
校長室	1室	37㎡	
会議室	2室	148㎡	
印刷室	2室	38㎡	
湯沸室	2室	38㎡	
職員更衣室	4室	148㎡	
放送室	1室	37㎡	
教材室（資料室）	4室	148㎡	計画内容により室数調整とする
倉庫（物置）	2室	74㎡	計画内容により室数調整とする
配膳室	3室	111㎡	計画内容により室数調整とする
給食室	1室	440㎡	計画内容により面積調整とする
PTA（CS）室	2室	74㎡	
書庫	2室	74㎡	

運動関連			
屋内運動場	2室	約2,200㎡	体育ホール・更衣室・器具庫等含む
共用部			
エレベーター等		適宜	
昇降口・玄関		適宜	
階段・廊下		適宜	
トイレ・手洗い場		適宜	
外構・グラウンド			
グラウンド		約22,000㎡～28,000㎡	トラック2面
テニスコート		約1,800㎡	コート2面
広場・中庭等		適宜	
屋外体育倉庫		適宜	
屋外トイレ		適宜	
屋外遊具等		適宜	
バスロータリー		適宜	
駐車場		適宜	
駐輪場		適宜	約300台
廃棄物保管庫		適宜	
部室		約200㎡	
プール		約900㎡	
その他			
児童クラブ			
図書館			

④教室規模の算定

※既存の学校の教室は旧JIS規格の学習机で規模を計画されているため、机レイアウトが狭い。
 (旧規格) W600×D400 → (現在) **W650×D450**



今までの一般的な
 広さ (64㎡) の
 普通教室レイアウト
 (既存の学校も62~67㎡)

新JIS規格の机
 のレイアウトでは
 35席の収容が困難

広さ約72㎡の
 普通教室レイアウト
 (参考)

新JIS規格の机で
 単独席35席程度
 のレイアウトが可能

⑤学校規模の検討まとめ

必要学級数

○小学校 17学級（特別支援 2 学級を含む）

○中学校 11学級（特別支援 2 学級を含む）

◎合計 28学級以上

特別教室数

○小学校 7教室（多目的教室等は除く）

○中学校 8教室（多目的教室等は除く）

◎合計 15教室以上

必要面積

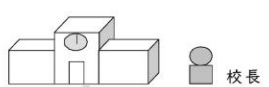
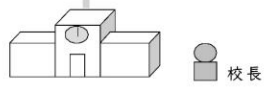
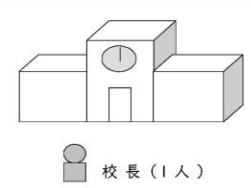
○小学校 6,853㎡

○中学校 6,098㎡

◎合計 12,951㎡以上

③ 学校種別の比較

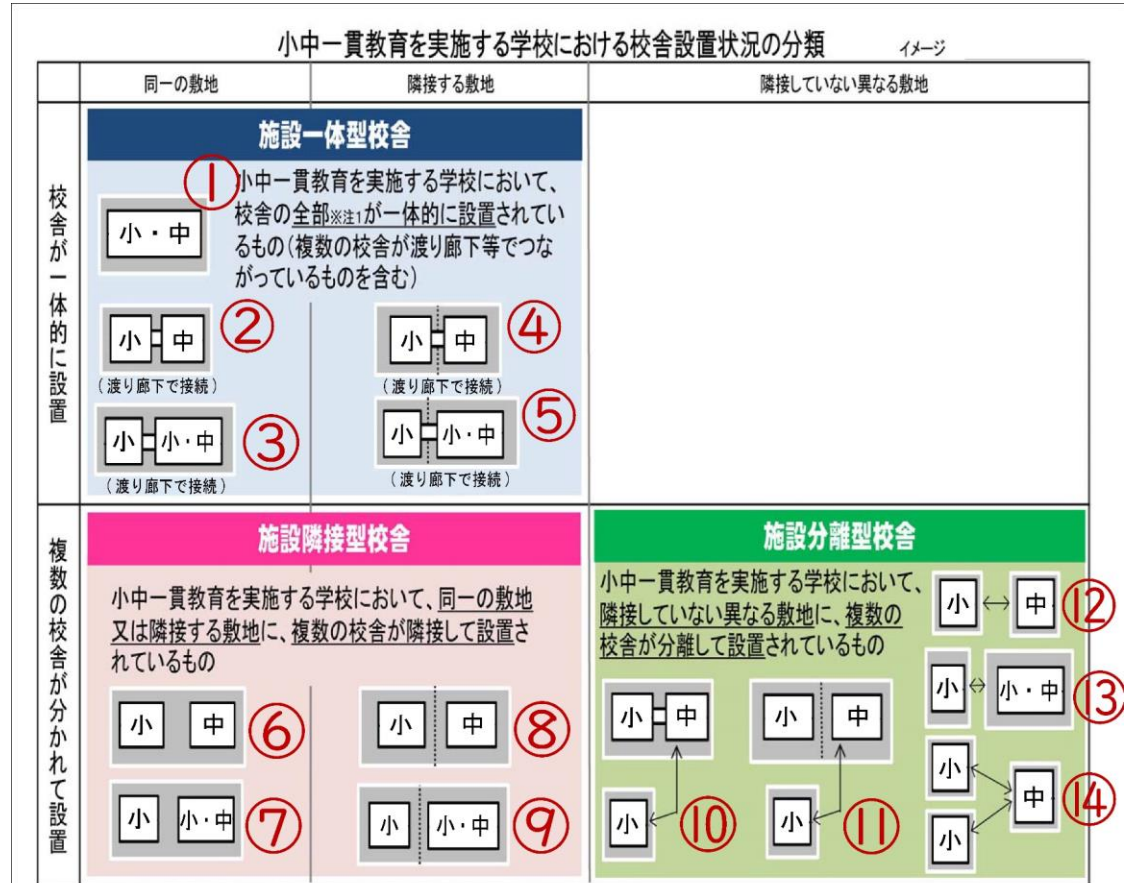
①学校種の比較

		小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
概念図		中学校  小学校 	
教育課程等 (共通事項)		<ul style="list-style-type: none"> ・9年間の教育目標を設定し、9年間の系統性・体系性に配慮した教育課程を編成(目指す子ども像を共有する) ・新教科等の創設や学年段階間・学校段階間での指導内容の入替え・移行等の実施 ・教科担任制の導入(相互乗り入れ指導) 	
学校種の特徴 (形態) ① 組織 ② 就業年限		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区におけるこれまでの小中連携教育の取組を基盤として、一貫教育にレベルアップさせる形態 ① 小学校・中学校として各々組織が独立 ② 小学校6年制、中学校3年制 ※カリキュラム編成上の工夫として4-3-2の学びの区分を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の発達に応じて義務教育として行われる普通教育を、基礎的なものから一貫して施す形態 ① 一つの組織 ② 9年制(前期課程6年・後期課程3年) ※カリキュラム編成上の工夫として4-3-2、5-4などの区切り設定も可。
名称		従来の小学校、中学校は廃止せず、鴻巣市立学校の管理運営に関する規則で小中一貫校の名称を規程	従来の小学校、中学校を廃止して設置する。 ※「義務教育学校」は法律上の学校の種類を表す名称。個別の学校名に「義務教育学校」を付ける必要はない。
第6学年 修了時	取扱 証書	小学校の全課程修了 卒業証書	前期課程の修了 修了証書
	儀式	卒業式	修了式
第7学年 開始時	取扱	入学	進学
	儀式	入学式	始業式
教員免許		小学校: 小学校の教員免許状 中学校: 中学校の教員免許状	小学校・中学校の教員免許状を両方有する者 ※当分の間は小学校の免許状で前期課程、中学校の免許状で後期課程の教諭になることができる。
指導上の工夫		小学校・中学校の兼務発令を行うことで、一貫校の教員として全児童・生徒に生活指導など行えるようにしている。	どの教員も義務教育学校の全児童・生徒に生活指導などを行うことができる (兼務発令は不要)。

②校舎配置分類の検討

○案1～4・・・①

○案5・・・②



④ ライフサイクルコスト の比較

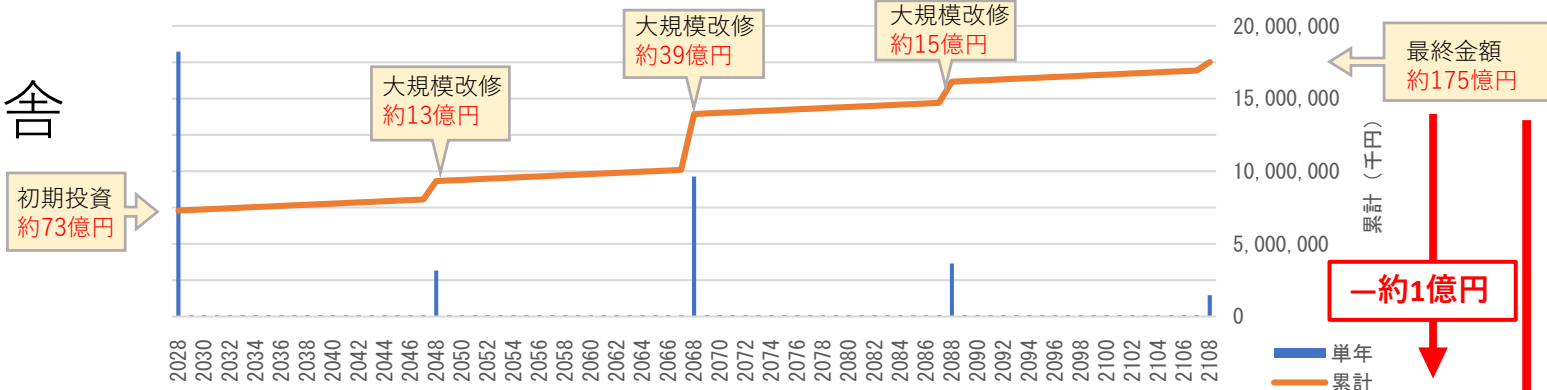
① ライフサイクルコストの比較

◇ 比較条件

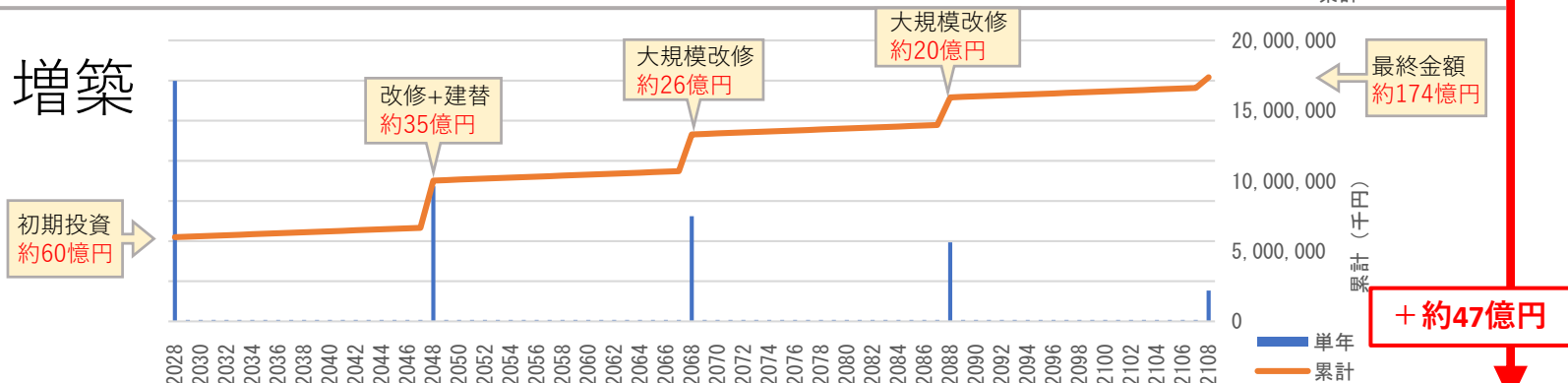
- (1) 「新築」「改修＋増築」「統合を行わなかった場合」を比較
- (2) 建設後80年目までのシュミレーションを比較
(躯体寿命を80年と想定)
- (3) イニシャルコスト：建設コスト
ランニングコスト：運用コスト（光熱費等）
保全コスト（維持管理・修繕）
解体コスト（解体・廃棄処分）

② ライフサイクルコストの金額推移比較

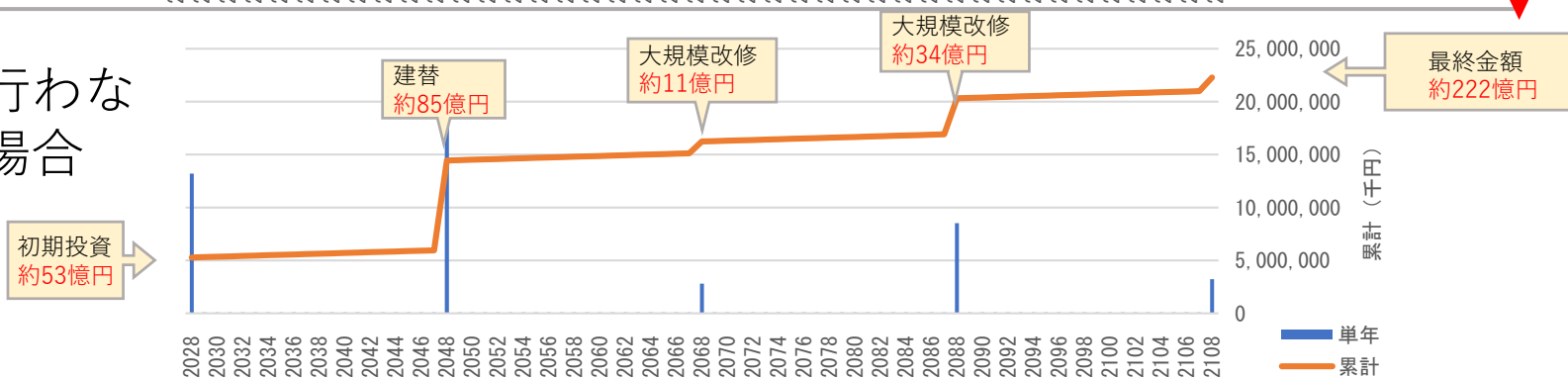
新築校舎



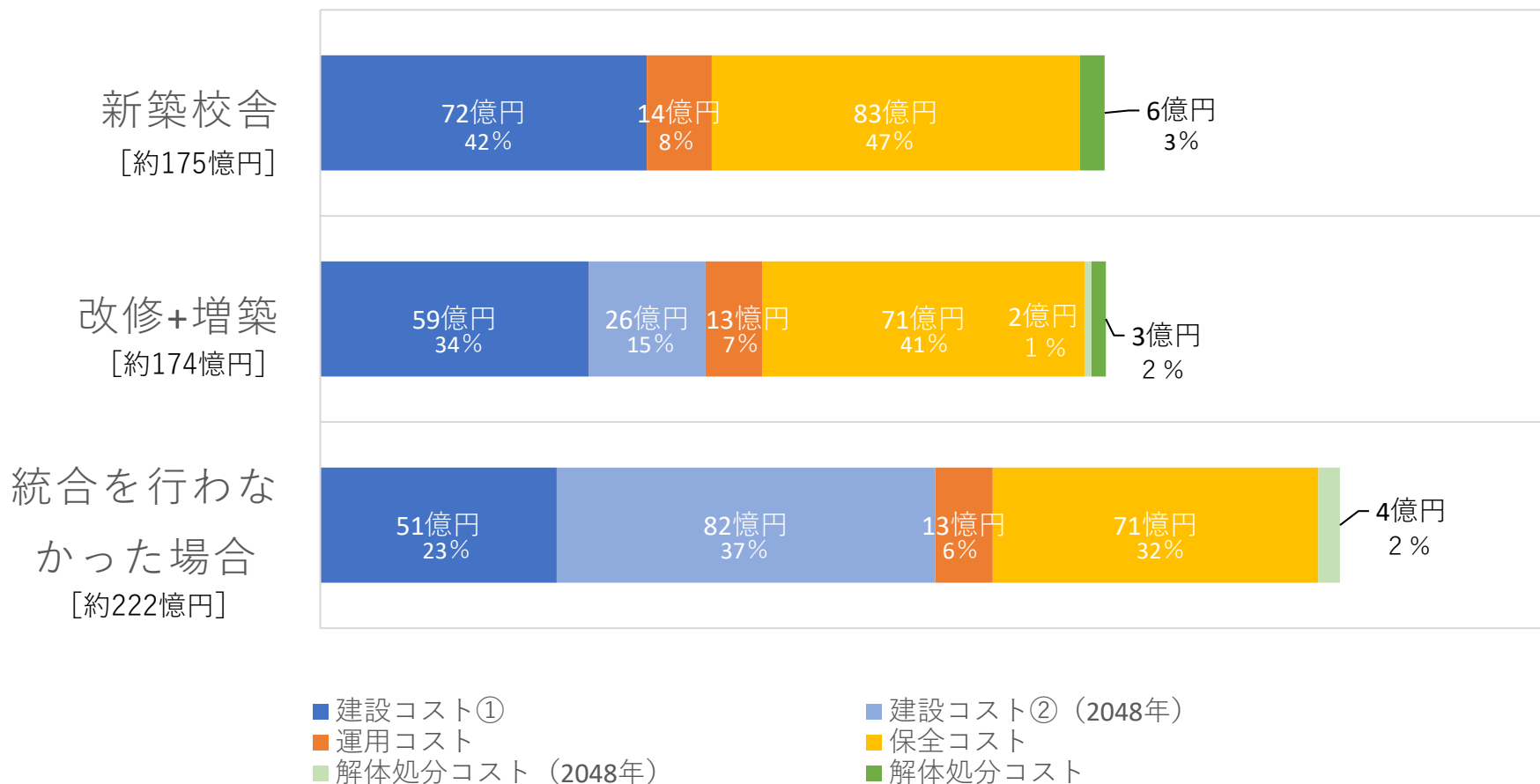
改修+増築



統合を行わなかった場合



③ ライフサイクルコストの構成比率比較



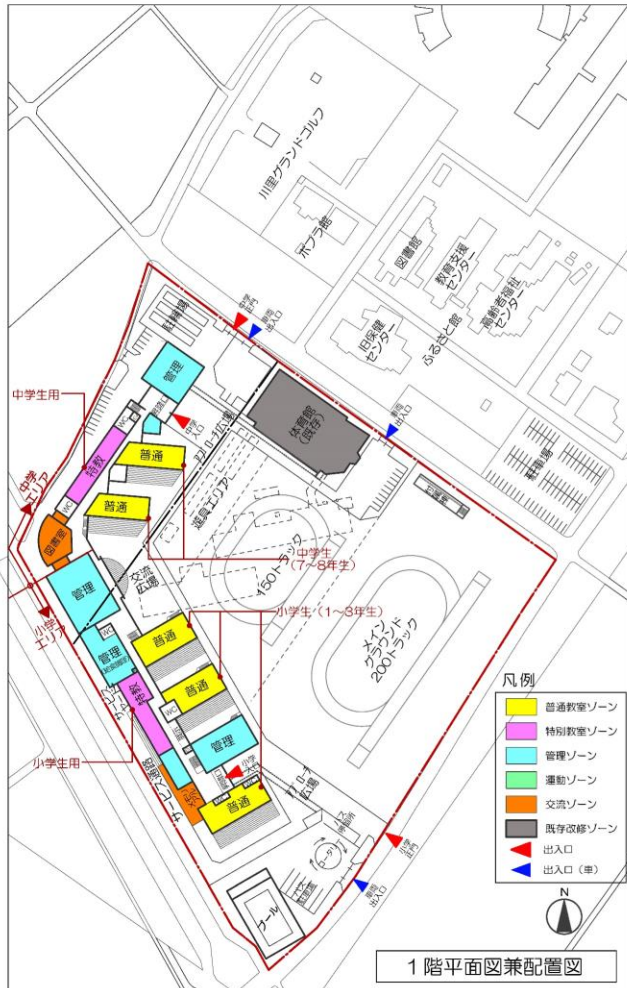
④ ライフサイクルコストのまとめ

- 初期の建設費は「新築」に比べ「改修＋増築」の方が安いですが、最終的に掛かる費用はほぼ同等となる
- 「改修＋増築」で計画した場合は、将来的に改修棟 建替える工事が発生する。将来建替工事では仮設校舎が必要になる
- 統合を行わないで、既存校舎での運営を続けた場合は最終的に**1.25倍程**の費用が掛かる

⑤ 平面計画 (仮2案)

■ 計画説明 『新築案』 : 2階建て

【新築案】(2階建て)



1階平面図兼配置図

計画概要

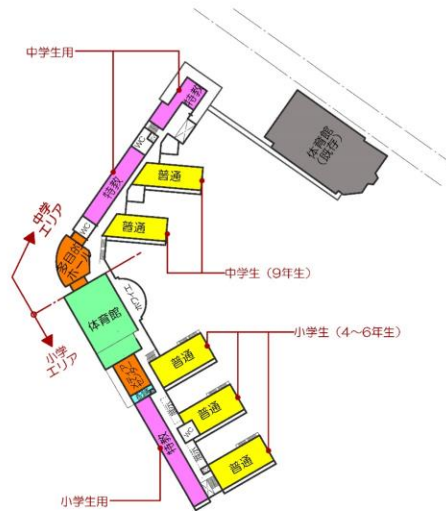
1	敷地購入	必要
2	学校対象敷地	①川里中学校敷地 ③北西隣地 ④東側隣地
3	校舎	2階建て
4	体育館(新設)	2階に設置(3階吹き抜け)
5	プール	新設(地上)
6	テニスコート	敷地外に計画
7	児童クラブ	敷地外に計画
8	図書館	敷地外に計画
9	駐車場の増設	敷地外に増設

計画の特徴

- ① 既存校舎をよけた位置に新校舎を計画することで、工事期間も中学生は既存校舎を使用することが可能になる
- ② 北東側に中学生アプローチ、南東側に小学生アプローチを計画
- ③ 小学エリアと中学エリアを明確に区分した
- ④ 普通教室を南に向けると共に適切な隣棟間隔をあげ、教室の採光換気を確保できるように配慮した
- ⑤ 小学生のバス通学や中学生の自転車通学を歩行者動線と区分し、歩車分離に配慮した
- ⑥ グラウンドを2面配置して敷地内で完結する計画とした

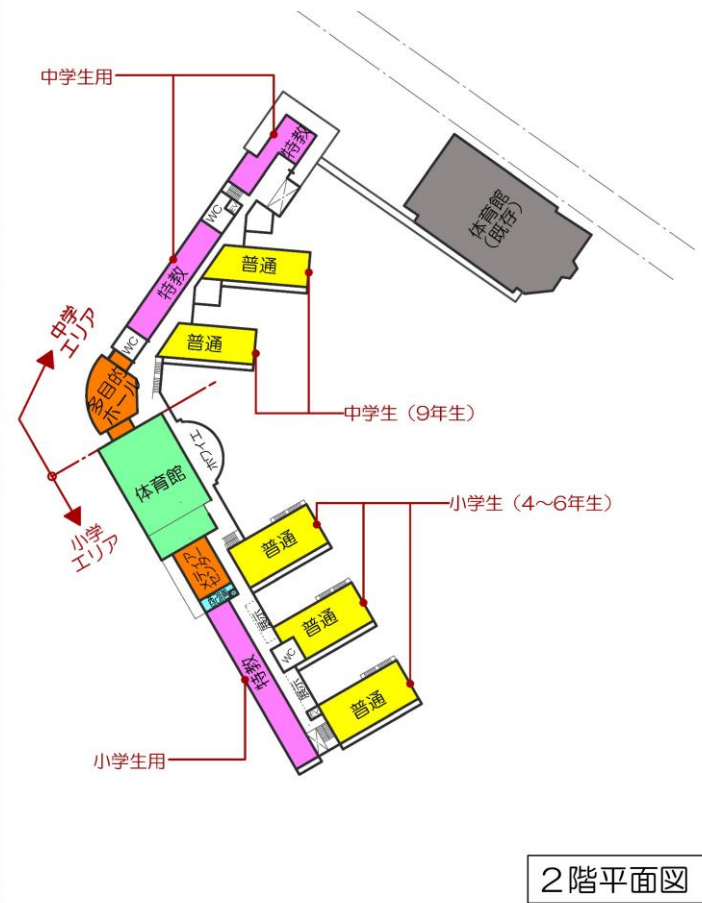
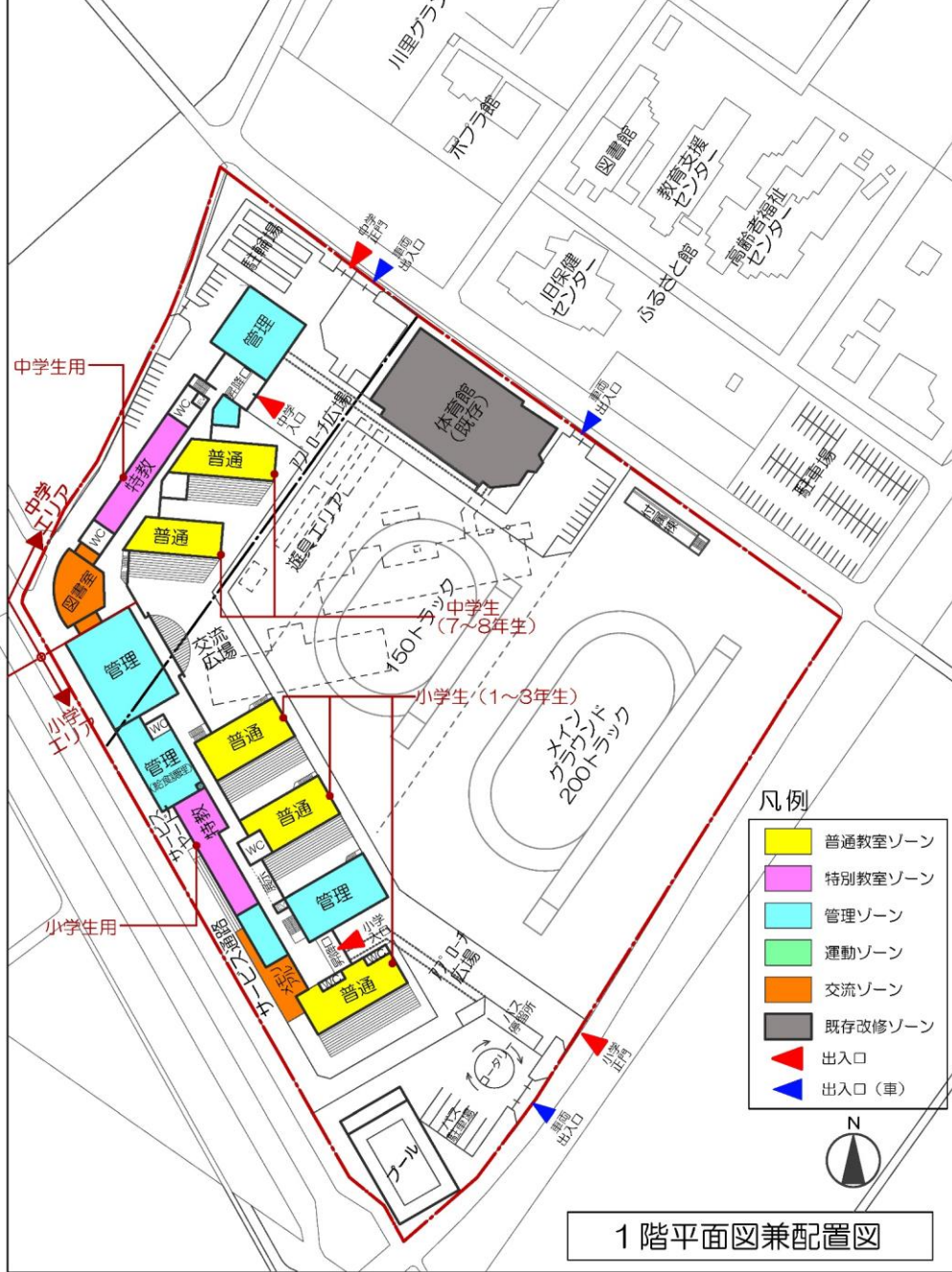
課題点

- 配置・外構
- ① テニスコート等の一部の施設が敷地外になる
 - ② 駐車場が不足する
 - ③ 既存校舎解体工事中は、グラウンドへのアプローチに配慮が必要になる
 - ④ 新校舎と旧校舎が近接している範囲は、工事中の目隠し養生、騒音対策等の配慮が必要になる



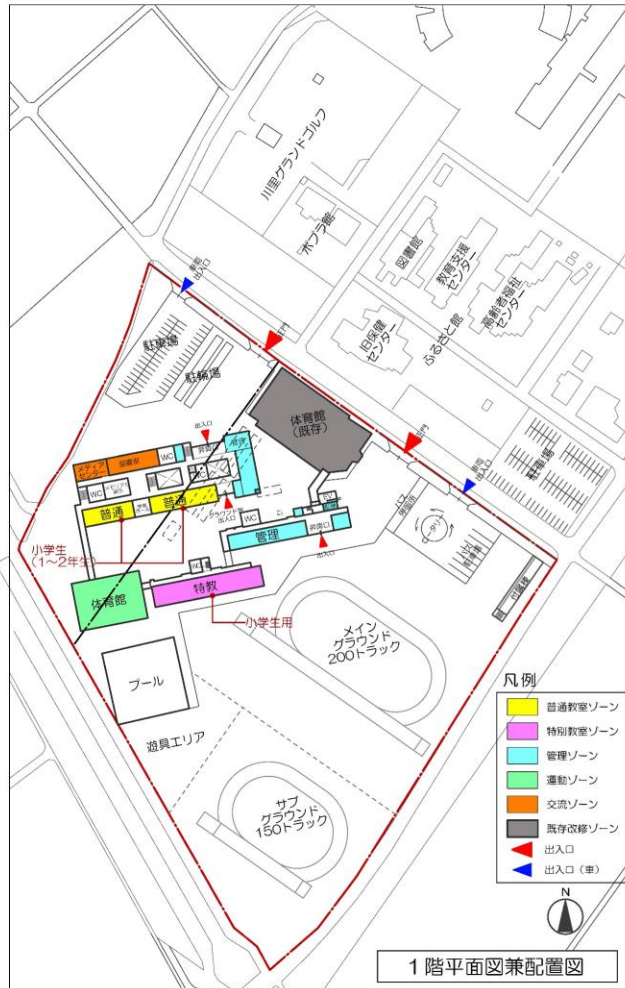
2階平面図

縮尺1/2000



■ 計画説明 『改修+増築案』：3階建て

【改修+増築案】（3階建て）



計画概要

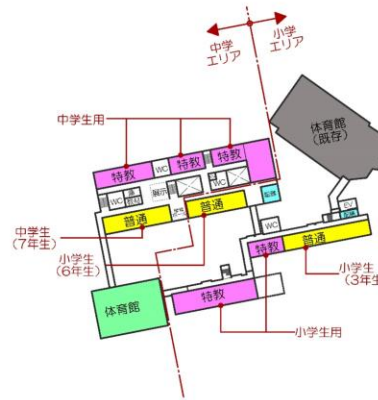
1	敷地購入	必要
2	学校対象敷地	①川里中学校敷地 ③北西隣地 ④東側隣地
3	校舎	3階建て（一部既存校舎）
4	体育館（新設）	1階に設置（2階吹き抜け）
5	プール	既存プールを改修
6	テニスコート	敷地外に計画
7	児童クラブ	敷地外に計画
8	図書館	敷地外に計画
9	駐車場の増設	校舎敷地内に新設

計画の特徴

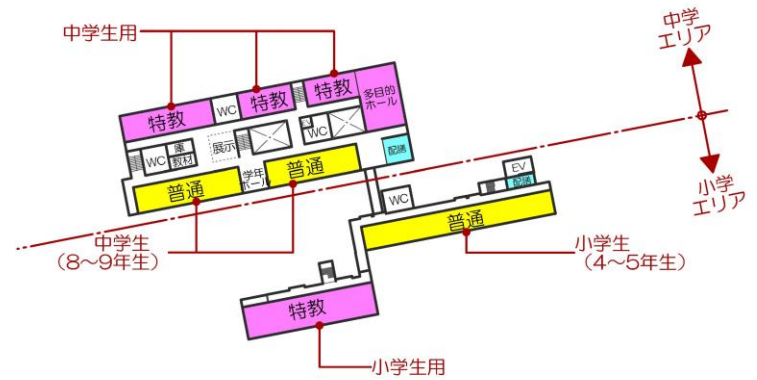
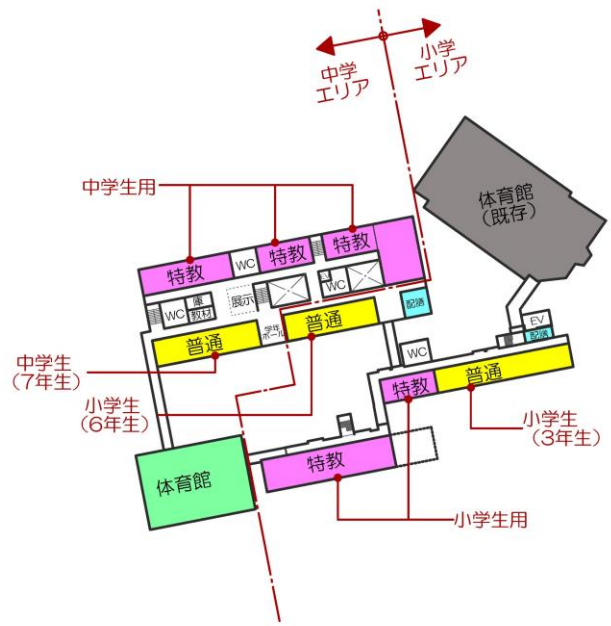
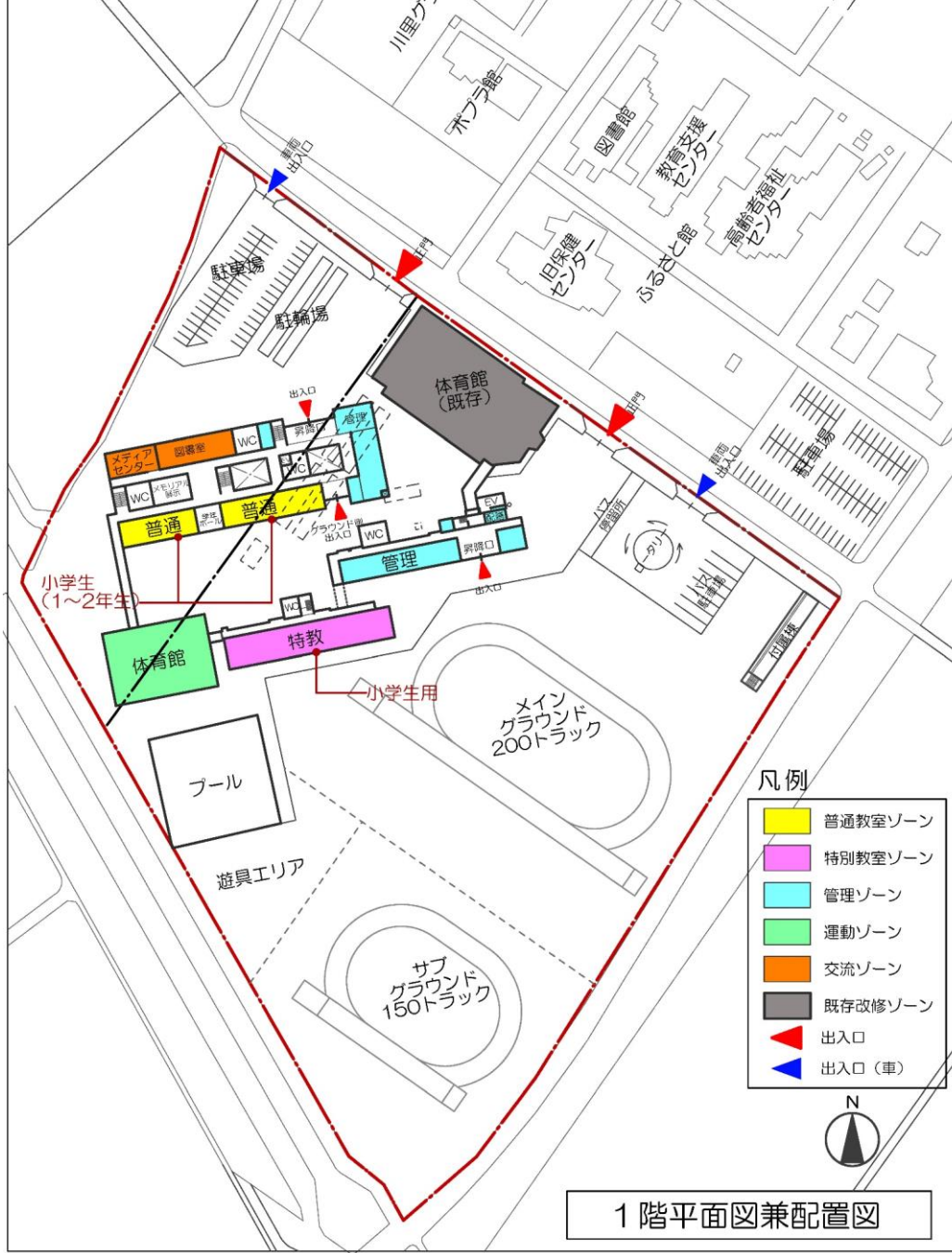
- ①増築と既存校舎改修を併用して建設コストを抑えた計画
- ②既存校舎は階段以上の制約があるので、階段を改修して小学生用の校舎として再利用
- ③増築棟を中学生用校舎とすることで仮設校舎を設置しない計画とした
- ④中学生用の校舎と体育館を増築
- ⑤各棟は渡り廊下で接続する
- ⑥プールは、既存プールを小学生用に改修して再利用
- ⑦グラウンドを2面配置して敷地内で完結する計画とした
- ⑧テニスコートを校舎敷地内に配置

問題点

- 校舎
- ①既存校舎の日影の影響を受けるエリアがある
 - ②渡り廊下の上下足の問題の解決が困難
 - ③新校舎からの既存体育館への経路が複雑
 - ④既存校舎側にEV棟の増築が必要になる
 - ⑤新校舎の一部で小学生エリアと中学生エリアが混在する
- 配置・外構
- ①グラウンドの形状が成形ではない
 - ②新校舎からグラウンドへのアプローチが悪い
 - ③校舎と既存体育館の間などの、成形でないデッドスペースが多い
 - ④小学校、中学校、ふるさと館、グラウンドゴルフ、児童クラブに対して、駐車場の不足が想定される
 - ⑤小学生エリアと中学生エリアが一部混在する

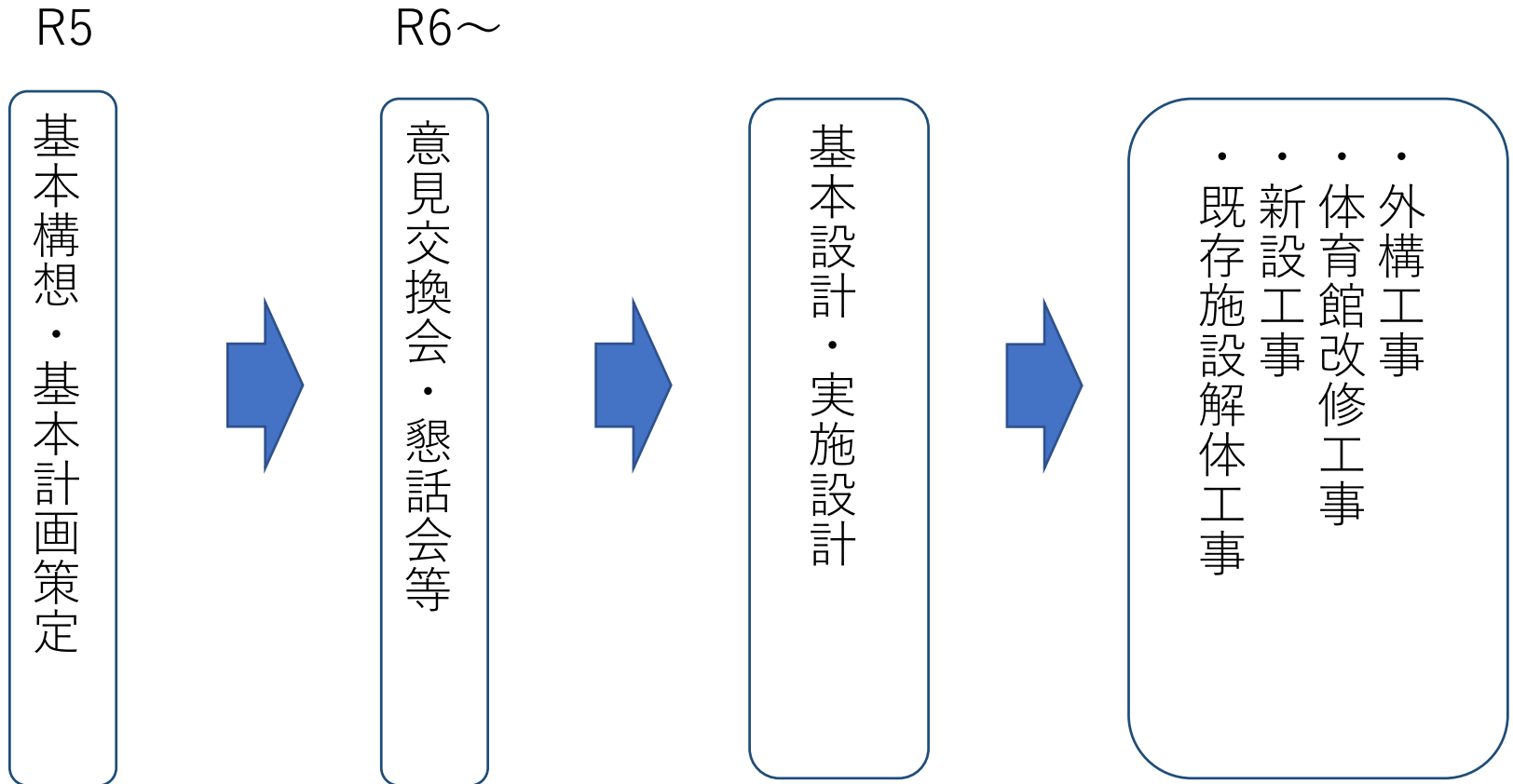


縮R1/2000



⑥ 事業スケジュール

事業スケジュール



質疑応答

■ 『基本構想・基本計画骨子』 についてグループによる意見交換

■各グループに分かれ自己紹介、リーダー決定

- グループ内自己紹介
- リーダーを決めてください
- 発表者を決めてください

■グループによる意見交換

テーマ

『基本構想・基本計画骨子』

についての意見交換（30分間）

使用するふせんの色

グリーン

.....意見（25分）

イエロー

.....まとめ意見（5分）

■グループによる意見交換

まとめ（5分間）

- 意見のまとめ
- グルーピング
- 発表準備

■発表

- グループA→B→Cの順で発表を行います
- 各グループ発表 [7分]

本日はありがとうございました

③結果

『基本構想・基本計画骨子』

避難所の機能	災害時の地域の人達の避難所の確保	スクールバス無料職員増員
避難所として今の小・中学校を活用する	1.基本理念 基本方針	スクールバスに係わる職員を増やす
災害発生した時に住宅地でない施設に避難不可	避難所機能は屈巢地区は対応が出来ないと思う	スクールバスは生涯無料を求める
アナットのあった課題に対する取り組み(人間関係等)が書かれてないのでわからない	避難所の機能をしっかりさせる	小学校の跡地は検討しているのか？

教職数をたっぷりにして欲しい	先生達の負担を減らす	教職員の数を多く欲しい
教職員の人数を増やしていく	2.学校規模	1クラスの人数を少なく、先生の数を多くして欲しい
義務教育学校に対する希望が大き過ぎる先生の負担が大きい	スクールバス職員	簡単な説明では意見は出せない
基本方針についての説明が不足	普通教室の数を多く(増えた時)	学校規模のついては余裕をもった計画にして欲しい
	生徒の増減に合わせてられるよう、教室を多く作っておくべき	

3.学校種別
「義務教育学校」という決定は様々な意見を今後も聞いてから決めて欲しい

統合しない方が良い	今の小・中学校のままの形で(統合しないで)	正確なコスト計上
統合を行わなくても一貫教育は出来るのではないか	統合しない案でも可能であるそれほど高くない	子供達の為にはお金がかかってもしょうがない
国の補助金を入れ説明を	4.ライフサイクルコスト	小学校3校を1校に統合するのだからコストが下がるのは当然
国からの補助金見込みは？	補助金	スクールバス費用が計上されてないバス=基本...費用計上

図書室を広く小・中別に	図書室は小学校2つ中学校1つ欲しい	図書室をしっかりとｽﾍﾟｰｽをとるように
図書室は学校の中に小中別で作って欲しい	ふるさと館は残して欲しい 特に図書館	図書館は今までの様に残して欲しい
教室の広さ大きく	5.平面計画	スクールバスの乗降の場所
小・中学校の教室の広さは中学校の方を大きくして欲しい	教室規模が小さい	スクールバスの乗降安全の為人員を増やす
新築でも盛土、駐車場整備、備品購入等費用は沢山かかると思う	コロナ対策等リスクへの備えが必要	新築案 1階ウッドデッキは反対廊下の外ならOK

今後、先生・住民の参加を	色々な説明経過等をこれからもして欲しい
先生や住民、保護者がしっかり参加計画出来る様に	ゴールありきでなく丁寧に進めて欲しい
6.事業スケジュール	
学校現地の先生の意見を充分聞いて欲しい	様々な人の意見(教員・保護者・専門家)をもっと聞いて決めて欲しい

Aグループ

『基本構想・基本計画骨子』

新設校の整備方針
9年間切れ目のない学
びの提供と良いながら
学校種の比較
当面の間はそれぞれの
免許状でいいとの事
先生不測の中、心配、不
安が有る

☆理念とコストしか示
されておらず具体的
な教育方針を今後検
討の予知あり

教員・補助の先生の
90日・120日を
(増やす)
もっと選べるように!!

使わなくなった
学校の行先
使用方法も示して
欲しい

義務教育学校にすると
学級数-4になり
教職数も減!?
教員1人当たりの
生徒数増

「令和の日本型学校」
埼玉に義務教育学校何
校あるのか、教育効果等
具体的に示して欲しい

1. 基本理念 基本方針

教員の求人やり方
を変えて欲しい もっと
PR!!

特色あるカリキュラム
→具体的に教育方法を
示すことが重要

避難所の数は今の
ままをお願いします

教育の充実のための、
教員数の確保

スクールバス
助手がいる安心のバス
無料で出して欲しい

小・中免許教員に
限定して教員配置
出来るのか?

教育免許
当面、それぞれの免許
で良いとは心配、不安
先生方も大変だと思う

統合しないで欲しい

保護者サポーター

現在の教室では縦に
6席並んでいる学年も
あるので72㎡ではもっ
と入るのでは?

現状40人学級だが、
35人想定では足りない
運営的には6列×6行の
方が

医療的ケア児が通え
る学校については市
ではどう考えている
のか、方針

2. 学校規模

中学校
小人数教室が
1室では少ない

カリキュラム編成と
校舎配置をつなげて
考えるべき

3. 学校種別

5-4制にした際
6-3制にした際
現教科書に対応する
のか?

特別教室関連

- 特別教室の数
中学校側が少ない
理科室2→1
家庭科室2→1
- ボプラ館が
児童クラブになる
→広さは大丈夫か?
- 放課後子ども教室
専用の部屋設置
- ICTが進むと図書館
の利用は減る
現状...
- 図書室は小中で
分けて欲しい
- 小学校、中学校
図書室別にして欲しい
- 駐車がかなり必要
になる
・例えば立駐にして災
害時車ごと避難出来
る等
- 特別教室にもエアコ
ンを設置して欲しい

ライニングコストは
共通する物は何か
出してもらいたい

4. ライフサイクル コスト

スクールバスの維持
管理費を入れるべき

自転車専用の道路を
作って欲しい

小学校17学級では少
ない

5. 平面計画

プールは外から
見づらい所が良い

周辺道路の安全確保
は同時進行してもら
えるのか?

9年間の義務教育学校
とすると校歌、校章等
も新しくなるのか

6. 事業 スケジュール

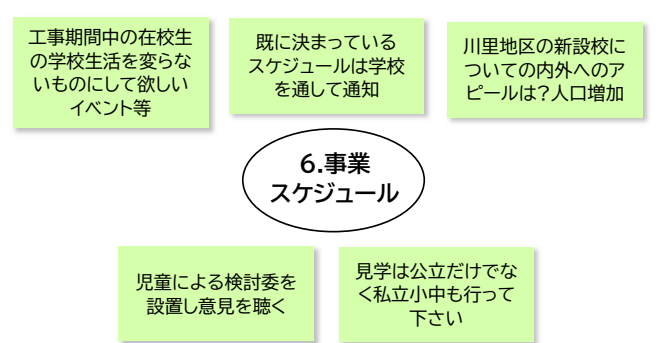
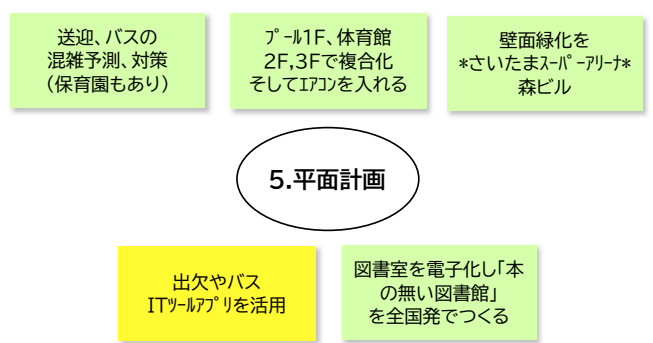
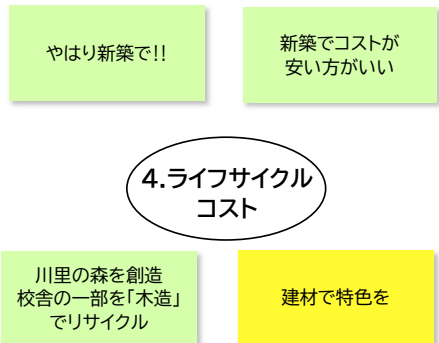
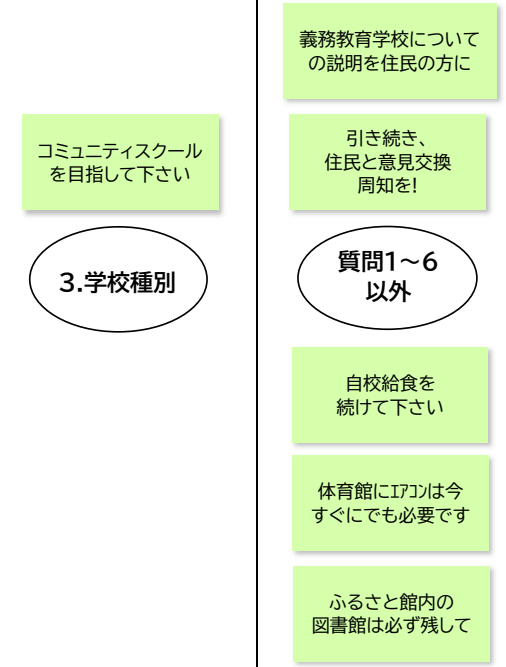
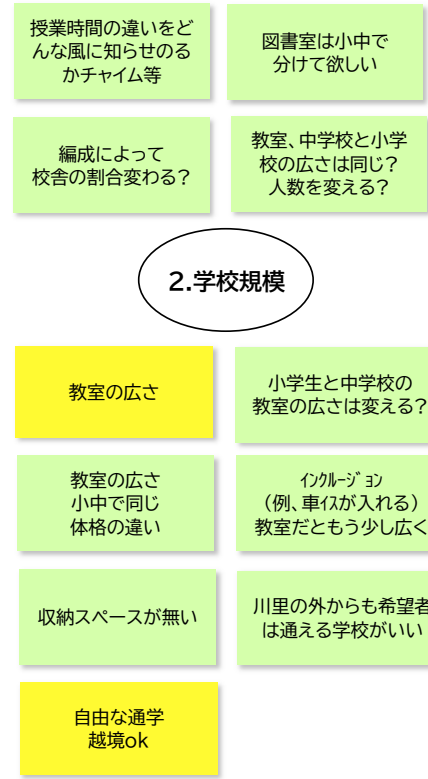
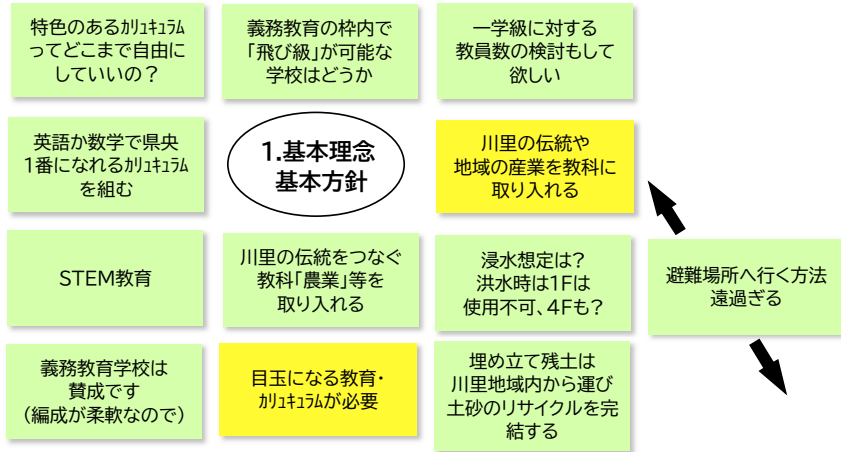
ふるさと館 今後の
あり方心配、是非経過
は市民に明らかにし
て下さい

そもそも市民に向け
て市の方針をもっと
PR-ジョブして欲しい
先を見て転居した(川
里地域を選んだ)人も
一定数いる為

地元の意見交換会を
開いて欲しい

Bグループ

『基本構想・基本計画骨子』



④議事録

第3回川里地域小中一貫教育校新設に係るワークショップ会議録

開催日時	令和5年 11月 26日(日) 9:00~11:00	
会場	川里生涯学習センター 2階会議室	
出席者	ワークショップ参加者	17名
	市職員	鴻巣市教育委員会 教育総務課 ■斎藤部長 ■松本課長 ■新井主査 ■堀主任 ■飯島主幹
	設計事務所	株式会社 桂設計 ■岡崎、■中山、■鎌形、■田名部、■一木

※■出席、□欠席を示す

1. 開会

総合ファシリテーター：岡崎

開催時間：2時間程度を予定

配布資料：「川里地域小中一貫教育校新設に係るワークショップ資料」

2. 前回のワークショップの報告

前回のワークショップの報告

アンケートの報告

3. 基本構想・基本計画骨子の説明

- 1) 基本理念・基本方針
- 2) 学校規模の検討
- 3) 学校種別の比較
- 4) ライフサイクルコストの比較
- 5) 平面計画（仮2案）
- 6) 事業スケジュール

4. 質疑応答

質疑応答

【質疑①】

- ・別紙裏面に関して、「市の基本方針」と「学校に対する方針」があるというお話がありました。こちらの「基本的な考え方と施設方針」というものは、どこから出た方針なのでしょうか。

回答：新設校の整備方針ということで、これまで意見交換やワークショップ、アンケート等を踏まえて作った案になります。どこかにあったというのではなく、これ

までの取り組みの中からピックアップさせていただいたものになっています。基本構想・基本計画なので、基本的な整備方針というものは、ソフトの部分もハードの部分も作られなくてはならないと思っています。(1)～(5)まであります。

(1) 小中一貫教育に適した教育環境の整備

小中一貫教育に適した教育環境の整備ということで、これまでの意見交換等で情報提供はさせていただいたのですが、平成27年から実際に川里地区では小中一貫教育という取り組み行ってきました。

新設校の学校形態を、小中一貫校にするのか、義務教育学校にするのかという事を検討した結果、事務局では小中一貫教育を推進するのであれば、義務教育学校を設置したほうがいいのではないかと提案を示しています。

(2) 社会状況の変化に対応する教育環境の整備

(3) 特色あるカリキュラムの開発、教育課程の編成

義務教育学校にした場合、こういった環境が整備されてくるのではないかと提案を示しています。

(2)の「社会状況の変化に対応する教育環境の整備」というところですが、国の審議会である中央教育審議会では、コロナ以降、(1)アに記載している「個別最適な学び」「協働的な学びを一体的に充実された令和の日本型教育」というものがとても加速しています。例えば1人1台端末など、教育現場というものは、とても変化していていると思います。

実際に、「個別最適な学び」については、学力は人によって個人差があるので、その人に合った教育をしていくという考え方がある一方で、集団やグループ等を組んで学んでいくことも必要です。そのため、できるだけ柔軟な学習環境をつくるという事がどんどん進められています。

(1)イに記載してある「インクルーシブ教育」についても、例えば国籍の違いや、障害などを持っていたとしたら、今までは別々で勉強しなければいけないということが当たり前でした。しかし、今後は、教室のつくりや端末の利用などで工夫することで、一緒に勉強できたりすることも考えられます。社会に出た時に、自分と違う多様性を尊重できる様な人間に育てていくところを教育に取入れていく必要があると言われていています。この義務教育学校の新設に併せて、インクルーシブ教育に対応したハードとソフトを整備したほうがいいのではないかと考えています。

柔軟な学年段階の区切りについては、これまで「小学校は6年生、中学校は3年生」ということが当たり前でした。(1)で義務教育学校とした場合は、小学校、

中学校という区切りではなく、「前期が5年、後期が4年」または「前期が4年、後期が5年」など、カリキュラムに合わせて学年段階を区切るなどということが可能となると思います。

あと、教職員の働き場としての機能向上については、先生方は公務や事務などをこなすとしても忙しい中で、教育現場もいろいろと変わってきている状況にあります。さらに、働き方改革ということはとても叫ばれているところです。そういった先生方が働きやすい学校をつくるということも整備として必要なのではないかとこのところも示させていただいています。

(3) 特色あるカリキュラムの開発

教育課程の編成は、義務教育学校にした場合、今までの小・中学校に比べると自由にカリキュラムが組めるようになります。また、義務教育学校は1つの組織になるので、教職員間の一体感が図られるのではないかと思います。そうすることで9年間、子どもたちにとっては切れ目のない支援が受けられるのではないかと期待しています。もちろん異学年交流も、今までよりも、より多くの交流機会が作れるのではないかと考えております。また、地域交流も、義務教育学校をつくることで期待できるのではないかと考えております。

(4) 避難所機能を有した施設整備

ハードの部分になります。川里中学校は野通川に面していますので、アンケートや意見交換でも意見が多く出ています。

例えば、ハードの面でいえば、「避難する体育館などは1階ではなく、2階にしたほうがいいのではないか。」「現状の学校は電気系統が全て1階に設置されているので、垂直非難の際は水没してしまわないように、新設校では考慮しなければいけないのではないか。」などの、基本的な考えが必要ではないかという提案を示しています。

(5) 通学支援

皆さまからも意見があり、通学距離が遠くなる可能性が高いので、スクールバスの活用は、基本的には必要であると考えています。中学生は自転車に乗って登下校しますが、そもそも「中学生以下の児童は自転車に乗れる年齢はどのくらいなのか」「通学支援というものは何が必要なのか」という基本的に考えるべきことを示しています。

以上のように義務教育学校にした場合には、必ず考えるべきことという事を書いております。

【質疑②】

- ・義務教育学校にする場合、国の中央教育審議会などの提案されている、「新しい令和の日本型学校教育」というものを鴻巣市でも目指したいということですか。

回答：国が目指している令和の教育というものは、義務教育学校でなくてもできるかと思えます。ただ、義務教育学校にした場合は、その考え方を当然考慮した上でソフトもハードも整備していくべきだと考えています。例えば教室のつくりが開放的であったり、グループで学べる部分をつくったり、開放的で広い廊下など、そういったところも含めて検討すべきではないかと思っています。義務教育学校でなくてもそれは目指すものだと考えています。

【質疑③】

- ・「(1) 小中一貫教育に適した教育環境の整備」はとても重要だと思います。未就学児童の保護者や先生などの専門の方たちが話し合って、施設の見学をしたりして決めてほしいです。ワークショップで全て決定されたような感じで報告されるのは、不本意だと思います。そのあたりは如何ですか。
- ・義務教育学校や小中一貫校などは、鴻巣全体の中でこれから取り組んでいこうと考えているのでしょうか。それとも川里がモデル校として先行して整備されるのでしょうか。

回答：ワークショップは何か決めるものではないのでご心配いただいているようなことはありません。ワークショップで決めたという出し方はしないように事務局ではしています。最後に方針を決定するのは、当然教育委員会が判断することになると思います。

一つ提案を形にしていかなければ議論が話にくいと思いますので、ワークショップでも案を絞りながら進めています。これから地域の方や懇話会の方に意見を出してもらうなどして決めていきたいと思っています。

回答：鴻巣全体では、川里地域だけが小中一貫教育ということ、23年から県の指定を受けて進めています。教育委員会としては、このまま成功するように続けていきたいと思っています。もちろん今後は全市内にも進めていきたいと思っています。

【質疑④】

- ・教室規模の算定について、机の旧 JIS 規格が B 型から A 型に変わったということで教室も広くなるようになっていますが、コロナ禍を経て、新しい生活様式が求められている中、

そもそもその A 型基準になったからといって、その規格が現状に適しているのでしょうか。感染症対策等において、密を避けるという状態を考慮するとこの算定は現状に合っていないのではないのでしょうか。新たな算定を検討することを要望としたいです。

- ・ランニングコストはスクールバスの維持、管理等のかる費用が含まれていますか。含まれていないのであれば、いくらなのか教えていただければと思います。

回答：教室の広さについてですが、当然のことながら今は広めのほうが良いとされています。また、廊下と教室の間仕切りをなくして、廊下までを含めた範囲を時と場合によって使い分けるような工夫行ったりしています。当然、机の規格が変わっただけの話ではありませんので、広めのエリアを活用するという形で進めています。最終的に決定していくには、いろいろな要素を含めて再考させていただきます。感染症に関しましては、もちろん広さもありますが、換気設備や空気調和設備など湿度調整なども全て絡んで見直しがされているようなところもあります。そして、学級数が 30 人学級になるなど、学年によって数の変更も出てくるということで、全部加味しながら最終決定していくという形になるかと思っています。

回答：スクールバスの維持管理費用についてですが、このコスト比較の中には含まれていません。新築校舎案、改修増築案、どちらにしてもかかってくるので、上乗せの数字は同じになります。概算工事費＋ランニングコストに関して検討していき、費用をはじめていきたいと思っています。基本構想の最終的な成果品の中には盛り込みたいと思っています。

【質疑⑤】

- ・統合を行わなかった場合のイニシャルコストが 53 億円となっています。初期投資のイニシャルコスト 53 億円とは何ですか。

回答：小学校は、古い校舎が多いので、新築の費用はかかりませんが、改修工事の費用はかかってくるだろうということです。4つの学校の改修費用になります。

【質疑⑥】

- ・別紙に 9 年間切れ目のない学びの提供とありますが、学校種の説明の中で、当面、教員は単独の免許で良いといいとあります。それぞれの小学校、中学校の教員ができるということですが、これで本当に義務教育学校と言えるのでしょうか。先生たちのアンケートの中にも、まだ知らないという人が 9.4%もいました。先生の中には、白紙に戻して現場の意見を聞いてほしい、義務教育学校も見学したいということも言われています。順番が違うのではないかと思います。そのようなところを本当に大事に

しながら積み上げて義務教育学校を計画していくことが本来大事なのではないかと思っています。そして、新設校の整備方針の「(2) 令和の日本型学校教育」ということが突然出てきて、驚いています。埼玉に何校ありますか。教育効果など具体的に示されなければ川里にどう適応していくか、納得できないのではないかと思っています。

回答：今回初めて示させていただいたので、まだ積み上げているまさに段階かというところでこちらは思っています。是非そういったご意見をいただければと思います。

【質疑⑦】

- ・今回のワークショップでこの建物をどうしていくかということは、決められないと思います。今後どのようなことを経て決めていくかということを知りたいです。計画を進めるに当たって学校の先生たちの意見を聞く、校長先生を集めて今後の方針を検討するなど、新しい教育や令和の日本型学校教育で出ている問題を話し合ってもらいたい。実際に教育をしていく先生たちを中心にして話し合っていないといけないのではないかと思います。今後はぜひそれをやって欲しい。

回答：おっしゃっていただいたとおり、考え方などは現場で働く先生方のご意見は必ず聞かなくてはいけないかと思っています。川里の中学校1校、小学校3校は小中一貫の協議会というものをつくって、今でも年に何回か会議を行っています。そういった中で教育委員会の考えについて、皆さんから意見をいろいろもらっている段階です。今年度も、先生方と情報を共有して話し合う機会を設けられるかと思っています。そういったものを踏まえて、来年度は基本構想・基本計画が出来上がったら、地域に情報共有をしていって、設計等に進めていければと思っています。今は積み上げているところなので、おっしゃっていただいたようなプロセスを踏んで新設を目指していきたいと思っています。

【質疑⑧】

- ・ライフサイクルコストについて、スクールバス、備品、設備、駐車場の拡張などでこの概算金額からさらにお金が掛かることになるかと思っています。また、解体費用などは国から補助があるという話を聞いたことがあります。「新築」あるいは「改修+増築」になった場合、国からの負担金や補助金がどのくらい頂けるのでしょうか。また統合を行わなかった場合は、改修になるので補助が全く出ないのでしょうか。

回答：ライフサイクルコストについては維持管理関係はまだまだこれからだいたい上積

みされていくと思います。3つの案を入れてありますが、ほぼ同じような金額で推移していきます。基本構想・基本計画のまとめでは最終的な金額を算出します。

そして補助金がどのような形になるのかということも、各案に対して表記させていただきますので、最終的な成果品を確認していただきたいと思います。

【質疑⑨】

- ・図書館に関して、新しい学校の図書館がこれだけでは絶対に足りないのではないかと思います。そのあたりも考えて、川里図書館はぜひ今後も残るようにすることを希望したいと思います。

回答：敷地の中に入っているものは、地域図書館ではなく学校の図書室ということで表記をさせていただいています。既存の川里図書館は、このまま継続するのか、改修するのかを今後検討していくことになっています。学校施設に取り込むことは、今回やめようという方向で、2つの案を提案しています。

【質疑⑩】

- ・今後、どのような段階を経て、建物が決まっていくのか。いつ決まって、これを決めるのはどのような人たちなのか。

回答：基本構想・基本計画がまず3月に出来上がります。そして、先生などの関係者と今度は意見交換をさせていただきます。基本構想・基本計画で提案を示さないと、議論のしようがありませんので、3月に内容を一度まとめて、それに対しての意見交換を進めていけたらと思います。

5. グループワーク

- i) 6人×3グループに分かれて意見交換
- ii) テーマ「①敷地利用、②平面プラン、③複合施設・機能」
 - ・1案・2案についての意見交換
 - ・3案・4案についての意見交換
 - ・5案についての意見交換

6. 発表

Aグループ (※発表シートに関しては別紙参照)

- ①「基本理念・基本方針について」

- ・避難所機能を充実してきちんと作って欲しい。
- ・屈巢地区は、中学校に避難するという事は少し問題があるので実際にはできないと思います。だから、旧小学校を避難所として引き続き残す必要があるのではないかと思う。
- ・旧小学校の跡地の検討をしているか。
- ・スクールバスについては職員をきちんと増員して対応してほしい。スクールバスは生涯無料にして欲しい。

②「学校規模の関係について」

- ・素晴らしい学校にするということに対して、まずは教職員の人数を絶対に減らさないで欲しい。逆に増やすくらいのことをしていかないといい学校にはならない。
 - ・教育方針に沿っていくと、専門の先生などはかなり必要になってくるのではないか。
 - ・教室の規模も少し余裕をもって、人数の増減に合わせてほしい。
- 今、広田小学校で仮設を建てているので、そういったことが起きないように教室の数を増やしておいてほしい。生徒数が減ってもいろいろと多目的に使えるのではないかと思う。

③「学校種別について」

- ・義務教育学校に決定するかは、今後さまざまな意見を聞いてから決めて欲しい。

④「ライフサイクルコストについて」

- ・そもそも統合しないほうがいい。
- ・統合しない案でも、コストに関しては、低く抑える可能性があるのではないか。
- ・補助金の金額等の説明が今まで1回もないので、それを説明していただきたい。
- ・スクールバスの費用が計上されていないので、バスは基本的に運用するということになっているため、バスの経費を含めた正確なコスト計上をして欲しい。

⑤「平面計画について」

- ・図書室は小学校・中学校を別にして、かつ、広めに作って欲しい。
- ・図書室は小学校は2つ、中学校は1つ欲しい。
- ・川里図書館は今のまま残して欲しい。今のように活用できるようにふるさと館の中に図書館を残しておいて欲しい。
- ・教室の広さについて、平面計画の中では小学校・中学校同じ広さだけれど、中学校の教室を広くして欲しい。
- ・コロナ対策としてのリスクは大きいので、広くして欲しい。
- ・ウッドデッキというスペースがありますが、これは必要ないのではないか。廊下の

- 外にあり、雨もかかってしまうので、いらぬのではないか。
- ・スクールバスの乗降の場所は、安全を考えてしっかりとロータリなどのスペースを確保して欲しい。
- ・盛土、駐車場の整備などに多くお金がかかるのではないか。

⑥「事業スケジュールについて」

- ・学校の先生方、住民、保護者がしっかりこれからも参加できる話し合いの計画をして、教員、保護者、専門家などいろいろな人の意見をもっと聞いて進めていって欲しい。
- ・今後、先生、住民の参加するというので、いろいろな説明、経過等をホームページだけではなく説明会で周知して欲しい。
- ・ゴールありきということで進めるのではなく、丁寧に話し合いや説明などをしながら進めていって欲しい。

Bグループ（※発表シートに関しては別紙参照）

①「基本理念・基本方針について」

- ・教員免許について、統合をした時に最初は小学校か中学校のどちらかでいいという話がありました。そもそも教員数が少ないというところが一番大きな課題だと思う。
- ・市が6・3制でいくのか、どのような形でいくのかということをしっかり決まっただけからではないといけない。
- ・今は教員数が少ないので、手厚く個々を大事にしたいけれどもできないという面がある。そのあたりを、どのように市がフォローして、教員数をどのように増やしていくのか。
- ・学校の1学級に入る先生の数も、1年生や2年生は本当はもう少し手厚くして、いきいきした先生を増やしていきたい。
- ・教員の件で、市のキャパシティもあるかもしれませんが、そもそもどこで募集をかけているのかなども分からない。働く時間に90日の制限があるなどをやめて、もう少し幅を広げれば、もっとやってくれる人はいるので、そのようなところも見直して欲しい。
- ・避難所の数などはそのままにして欲しい。
- ・そもそも統合しないで欲しい。
- ・アンケートを見ても、前向きな意見だけではなく、統合しないで欲しいという厳しい意見も多かったと思います。このように市が考えていますということ、市民に向けてもう少しアピールして、それを市民がもっと触れる場、見える場を増やしていかなければ、納得してくれる人の数は増えていかないのではないか。

②「学校規模の関係について」

- ・資料を見ていると、35人想定通常学級の教室の大きさだと、現状6列6行くらいで生徒が入っていたりするので、それとは合わないのではないかな。
- ・先ほど出た教員数が足りないというところでも、1教室当たりの人数は多くなる現状があるので、35人想定であると入らないのではないかな。
- ・ICTが個別最適の部分で入ってきてはいますが、図書館の利用ということを絶やさないと欲しいという意見も出たので、そのような現状がありつつも、図書館の価値、意義を、想定して考えてもらう方がいいのではないかな。特にふるさと館が併設されているところも、ICTと分けて考えてもらえると生かせるのではないかな。
- ・駐車場が必要。
- ・ポプラ館が児童クラブになる場合は、広さ的にそれが大丈夫なのか。
- ・少人数教室は、1教室で足りるのか。個別最適という考え方で、少人数指導をその要素の1つとして計上しているのであれば、1教室では少し足りないのではないかな。
- ・特別教室の数ということも、現状理科室が2つ、家庭科室が2つなどあるのに、資料からは1つに減らされているので充実した教育ができるのか。

③「学校種別について」

- ・カリキュラム編成や校舎配置をつなげて考えなければ、既存の教育と何も変わらないのと思います。逆に5・4制や6・3制などに変えた場合は、教科書などが対応するのか。教員も対応できるのかというところが、少し疑問としてあります。

④「ライフサイクルコストについて」

- ・共通でかかるものは、光熱費などいろいろとあると思います。既存で3校を残すか4校を残すとかでは、若干変わってくると思います。共通のところはどのようなものがあるか、きちんと分けて出してもらわないと比べようがないと思います。
- ・川里は特殊なところで、中学生は全員自転車で通学しています。小学生について、全員スクールバスにするのか、学年によって自転車を解禁するのか、安全の面もあると思うが、そのあたりを考えてもらい。経費を落としてもらいたい。

⑤「平面計画について」

- ・平面計画について、17学級では少ないのではないかな。
- ・プールは外から見づらいところがいい。

⑥「事業スケジュールについて」

- ・周辺道路の安全確保も同時進行してもらえるのか。大きな道路に面しており、トラックが多い、信号が少ない、外灯が少ない。小学生が通るといふことで、事故を未然に防ぐために周辺道路の安全も一緒に見直していってほしい。
- ・少人数学級を求めて川里地域に引っ越したという方も中にはやはりいらっしやるので、そのような人たちにもしっかりと説明できるような方針を挙げていってほしい。

Cグループ（※発表シートに関しては別紙参照）

①「基本理念・基本方針について」

- ・義務教育の学校けれども、選ばれる学校を目指して欲しい。
- ・川里の伝統である地域の産業をカリキュラムに入れて欲しい。
- ・目玉になる教育課程やカリキュラムをぜひ設定をしていただきたい。具体的には英語や数学を強化するなど、そのような学校を目指して欲しい。

②「学校規模の関係について」

- ・教室の広さや体格によって、小学校・中学校の体の大きさによって部屋を変えるか、クラスの人数を変えていくなど工夫して欲しい。
- ・授業数の違いをどのように知らせていくか。チャイムなどの利用か。
- ・図書室は小学校・中学校で分けて欲しい。
- ・収納スペースが少ないので広げて欲しい。
- ・自由な通学。他からも呼び寄せられる特色があるといい。
- ・クラスを分けるのには、義務教育学校になるのか小中一貫校になるのかで、多少変わってくるのではないかとはいいますが、そのような教室の大きさ、広さ、それと特別教室のバリアフリーやいろいろな障害を持っている方との交流もできるのではないかと。

☆「その他要望」

※私たちのチームは3番があまり出なかったもので、1～6以外の質問や要望をお話します。

- ・義務教育学校についての説明を住民の方、学校の先生も含めて、もっと丁寧な説明をしていただきたい。
- ・学校給食は、今まで小学校・中学校は自校給食でした。そうしたおいしい給食をぜひ続けて欲しい。
- ・給食室が狭く感じたので、数百食の給食を作るスペースとして足りているのか。
- ・体育館は、これから5～6年間近くエアコンなしという状況になるのは、少し厳しいかと思ひます。ぜひエアコンを付けて欲しい。

- ・ふるさと館内の図書館は必ず残していただきたい。アンケートにもずいぶん出ていたかと思いますが、よろしくをお願いします。

④「ライフサイクルコストについて」

- ・施設の建設はもちろんですが、どのようにしてサステイナブルな形で 80 年間残していくかということ考えた場合に、建築を造る時からいろいろと考えたほうがいいのではないか。盛土や残土の関係で言えば、盛土は川里の地内で掘り上げたものを使い、残土は川里地内に戻すなど、できるだけ狭い地域での残土リサイクルをする。

校舎の建物の中の一部を木質したものを使い、その木質化するための材木は川里の森、小中学校の森のようなものを作り、30 年ごとに更新していくなど、そのようなサステイナブルな思想を取り入れた施設マネジメントということも考えていただけるといいと思う。

⑤「平面計画について」

- ・複合施設を拡充して欲しい。
- ・空調設備を今の時代に合ったものにして欲しい。
- ・今の時代、緑化を推進しているので、それに合わせて思いきって壁面を全部緑化にする。
- ・図書室はアナログの本ではなく、本のない図書館のように IOT を使って人と電子を組み合わせた特色を出す。
- ・送迎バスの混雑予測、今どこにバスが通っているか、出欠、そのようなものはアナログではなく、IT ツールを使ってアプリなどを活用してもらえれば、より便利になってくるのかと思う。

⑥「事業スケジュールについて」

- ・新設校は決定事項ではないと思いますが、今このような活動をしているということ、広く皆に周知して欲しいと思う。保護者は結構心配しているところだと思うので、通知してあげたらいいのかと思う。
- ・検討委員会を今の 4 校に設置して、広く児童の意見は聞いて欲しい。
- ・参考にする校舎に関しては、公立校だけではなく、私学も検討してもらえればと思う。
- ・新設校に関して川里地区内外にアピールをして欲しい。人口増加がないと意味がないので、アピールはして欲しい。
- ・新設校だけではなく、工事期間中の在校生の対応について、工事期間中の在校生の学校生活の制限が多かったり、イベントなどが工事期間中でグラウンドが使えない

からできないということはやめて欲しい。

- 7. 講評・閉会/事務連絡
- 発表について講評
- 齋藤部長より挨拶